

# 婦人止學毛



第二卷  
第七號

# 謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。

本誌は一般讀者の寄稿を歓迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡べて左の規則によることとす。

- 一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざること。
- 一、封書の表には、凡て婦人ど子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

發行 毎月一回五日發行○第一卷第一號明治卅四年一月二十日發行

定價 一册金拾錢○六册前金五拾七錢○拾貳册前金壹圓拾錢○郵稅各一册一錢○切手代用は壹割増但壹錢切手に限る。

入會者 は會則御承知の上にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレール會あて申し込まれば雜誌は無代價にて送呈すべし

讀者 是總べて前金にて東京日本橋區本石町三丁目二十三番地金昌堂へ御注文のこと○送金は神田今川橋又は日本橋室町郵便取扱所受取入金昌堂あてのこと○見本は切手二錢に限り十二枚封入にて申し越されたし○前金相切候節は亦にて●印は御姓名の上にて附し候に付き早速御送附下されたく御入用なき時は御斷り下されたく候○轉居の節は新舊共に御通知を乞ふ

編輯 編輯に關する御照會及原稿御寄贈はすべてフレール會あてのこと

廣告料 一頁十圓半頁五圓

明治三十五年七月二日印刷  
同 年七月五日發行

不許複製

發行所 東京市本郷區元町二丁目六十六番地  
編輯者 東京市江崎區錦町一丁目十九番地  
印刷所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
印刷所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
發行所 女子高等師範學校附屬幼稚園内  
發行所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地  
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地

大賣捌所 東京東京堂●同東海信文合資會社●同北陸館

婦人と子ども 第二卷第七號目次

子ども

鶯鳥の念佛(やまとの翁)小蝶物語(野口雨晴)各畜の誠(小島松之助)おむすびとおだんご。笑ひ草。狐のお土産(獨醒軒主人)。懸賞考へ物當選披露。懸賞問答

家庭

子供に聞かせる話につきて.....東 基 吉  
日常の作法.....雨 森 鋼  
傳染病.....醫學士 長瀬復三郎  
今いろは料理.....石井泰次郎

學術

眼の話.....本 郷 生

史傳

津崎矩子(元結).....下村三四吉  
國學と荷田春滿.....米 溪

文苑

偶作六首.....佐々木信綱  
鷄.....竹柏會全人  
琴の音.....鷺 水

此世の旅路

蝶.....東くめ子  
一聲.....小畑いく子  
師を懷ふ.....獨醒軒主人

説林

動物愛憐と教育.....本田増次郎  
橋梁の觀察.....野口保典  
本邦古代保育法の一斑.....下村三四吉

寄書

お寺参りの婦人と子ども.....凹 凸 子  
母と子と繼母.....林 壽 祐

雜錄

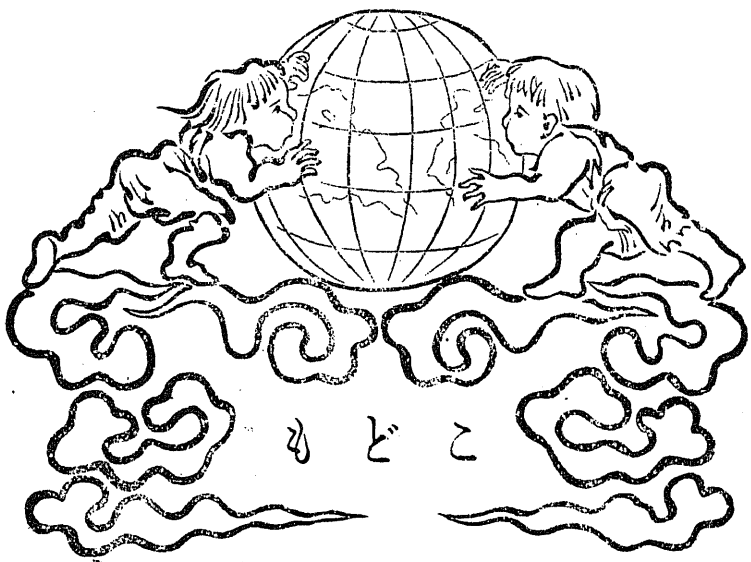
水と人生.....摩 訶 生  
七月(ふみ月又ふ月).....せ 生  
米國に於ける我が二人の女學生.....や、 生  
結婚論.....野 本 生  
七夕.....節 句 生

彙報

九重の御消息●學びの窓●東京より●地方通信●  
海外彙報●會報



もどり子と人婦  
號七第卷貳第



鷺鳥の念佛

やまとの翁

皆さんね、あひるのよーな  
鳥で首のながい 大きな  
よー肥え太つた鷺鳥をご存  
じでしよー。あまり大きく  
って 肥えて居るからと  
ても他の鳥のよーに飛ぶこ  
とわ できないです。けど  
も水の中と来たもんなら、  
泳ぐことにはかけてわ、夫わ

く 達者で、他の鳥などわ　とても叶いっこなしです。そして  
いつも　ガア　く　ガア　く　とないています。

ある日の夕かたでした。この鷺鳥どもが大勢でガア　く　ガ  
ア　く　とないて　草の中をあるいていた所え、どこから　やっ  
てきたんでしよー？　ヒヨイと一匹の狐が飛び出してきました。  
すると　さー　鷺鳥どもわ　びっくりして　みんなが　一度  
に走ってにげよーとしますと、狐わ　おそろしい　こわい目付  
きをして　みんなの前えたちふさがって、  
『なに　みんな其よーに　あわてゝ逃げなくっても　いーじ  
やないか、僕わ、こんばん　君がたの所え、ごちそーになり  
きたつもりなんだよ、さー一人づゝ、ちゃんと列を造っておと

なしく、そこえおならびなさい、端から一人づゝ食べて上げるのだから』

こーいって 狐わ大勢を片端からグっとにらみ廻すのです。そこで驚鳥どもわ みんな ぶるゝふるえて 顔の色を眞青にして『どーしよーく』といつてこそゝ相談をしてみます。

『あー困ったなー』と一羽の大きな驚鳥がいますと、  
『僕わ あその枝にとまってる鳥に生れゝば よかったと思  
うよ』これわ驚鳥の子がゆーのです。

『私ねー ほら お寺の屋根なんかにいる鳩ね、あの鳩になり  
たいわ』これわ小さな雌の驚鳥がゆーのです。けども こんな

ことばかし いったいでも 仕方しかたがありませんから、皆みなで 一ひと

度ど 助たすけてくれるよーに 願ねがって見みよーじゃないか とゆーこ

とに相談きだんをきめて、狐きつねに夫おとこを

願ねがって見みたのでしたが、中なか々やく

許ゆるしてくれ相あにもないのです、

まー憎にくいじゃありませんか

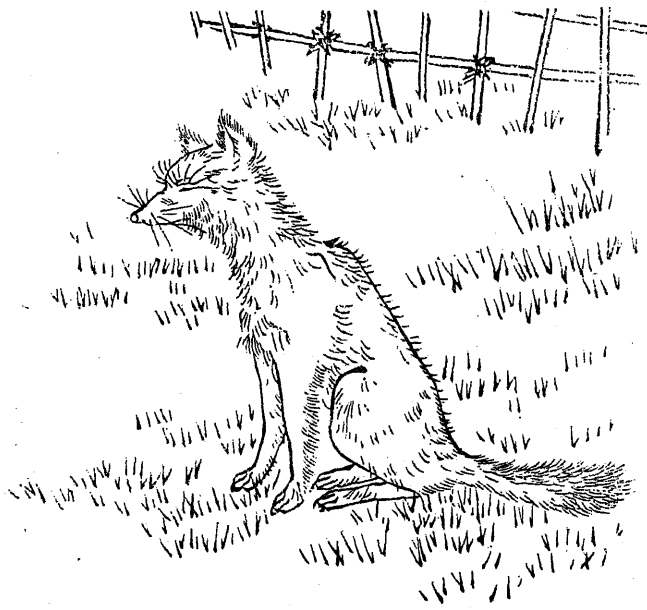
こーゆーんですもの、

『なにっ、命いのちを助たすけてくれと

ゆーのか、そりや いけない。

君きみがたわ 僕ぼくに食たべられよば

夫おとこでいーのじゃないか、許ゆる



してくれもなにも あったもの  
 のじゃない、死ねば 夫でい  
 ーのだ』

こーなんですから、もーみ  
 んなも仕方がないと思っ  
 大變哀しんでいました所が、其

中で一ばん 大きな驚鳥が

ひょっと思ひついたと見えて

狐の前えでて いーますにわ、

『ねー 狐さん、こーしてみ

んなが あなたに食べられて死ぬのだと なって見れば 夫わ





も一仕方がないのですが、ど一か吾々が死んだあとでわ、みんなつれだって極樂へ行けるよ一に おねんぶつを いわして下さいませんか、ね、これだけわゆるして下さい、其おねんぶつが すんだら、其後で みんなおとなしく列を造ってならびますから そしたら 一番肥えた おいし相なのから、先えお食べ下さいませんか』

こ一いったもんですから 狐わ

『フン 念佛をも一すと ゆ一のか 夫わい一だろ一な一 信心なこったから 夫だけなら許してやるから、はやく念佛を申しなさい、すむまで まってあげる』

そこで 一番大きな鷲鳥が ガアくガアといって ながい

ながい 念佛ねんぶつを始めはじめました。所ところが二番目にばんめの鶯うす鳥とりわ、夫おとこが中なか々々くすまないもんだから また ガア〜ガア〜と行って 念佛ねんぶつを始めはじめる、しますと三番目さんばんめのも 四番目よんばんめのも 五番目ごばんめのも 夫おとこから みんなが 續つづいて始めはじめましたもんですから、大勢おほせが一度いちどに ガア〜ガア〜と 念佛ねんぶつをいいっています。

狐きつねわ しかたが ありませんから 約束やくそく通り ちやんと 座まって 夫おとこがすむのをままっています。

そこで、このはなしのつゞきも、大勢おほせの念佛ねんぶつが すみますとすぐに、始はじめまるのですが、まだ仲な々々已やめなないで いいってるだろーと思おもいます。めめでたたししく。

(おしまし)

小蝶物語

野口雨情

●小蝶子之助の巻

春が暮れて夏が来まして、間もなく薔薇の花が散つて仕舞いしましたので、小蝶子之助は止むなく今度は夏草の白い小さい花の上へ移轉を致しました。

京ちゃんは毎日々々朝早くから来まして、天道さまが這入つて終ふまで、小蝶子之助と遊び暮らすのが常でした。

さうする中に、夏草の花がそろ／＼萎みかゝつたので、仕方なしに小蝶子之助は又々花から草の葉へ引移しました。京ちゃんは相不變平常の如に來ては遊んで居りましたが、月日過つのは早い

もんで夏も暮れて秋の初めとなりました。

丁度南風がノヨ／＼吹く秋の朝です。

『もう京ちゃんが来る時分だ』と獨言しながら

小蝶子之助は草の葉の上へお座りして京ちゃんの

來るのを待つて居りますと。間もなくガラ／＼

ツとお庭の柴折戸が開かつて。

『子之助居るの？』と京ちゃんの優しい聲が聞

こへました。

子之助はお座りしたまゝ、『へー、居りますよ、

此處に居ります』と重ねて申しました。

『朝起きなこと。』と言ひ乍ら京ちゃんは元氣よ

く子之助の傍へ驅つて來ますと。

『お早やう坐います』と言つて、子之助は涙を

流して居りますので。

『お前、泣いてるのかい』と不思議さうに京ち

やんが聞きますると。

『いえ、泣きも何んにもしません。』と兩手で小さな目を隠しました。

『だつて泣いてるぢや無いか。』

『泣くんぢや有りませんが、南風が眼に泌みましてね。』

『南風？』

『は……』

『まア南風が眼に泌みるなんて何うしたんだらう。』と京ちゃんは心配さうに言ひました。

子之助は漸と顔を上げまして、京ちゃんの顔をつくぐ、眺め乍ら。

『京ちゃん、誠に濟みません。何卒來年も遊んで下さい。』



『來年も遊ぶつてお前、何處へか行くの？』

『はい今日限りで、もう他處へ行かなければ成りませんから、何卒忘れずに來年も遊んで下さいな。』と言ふや否や子之助は泣き俯伏して仕舞ひました。

『何處へ行くの、何處へ』とせき込んで京ちゃんが問ひしても

子之助は何んの應へもせず泣いて居ります。京ちゃんも茫然して立つて居りますと。

『こんなに南風が眼に泌みるやうに成りましては、何うしても私は他處へ行かなければなりませんから、明日からは京ちゃん一人で遊んで下さい。そして又來年の春になりませすれば

お目に掛りますから子。」と、子之助は悲しさを申しまして、フト立ち上りました。

「さう、南風が眼に泌みるッて……秋の風が吹くんで……、ぢやか前他處へ行くッて死んで終ふことなの？」と京ちやんは初めて思ひ出したやうに、可哀想になつてハラ／＼と清しい眼から涙を落しました。

「はい、秋になりましたから神様のお定めに随つて私は死ななければ成りませんです。」と子之助も覺悟はして居りまして、矢つ張り淋しく思つたのでせう。サメ／＼と泣いて居ります。京ちやんも堪へ切れずに、袂を顔に當てて泣き出しました。

「京ちやん又來年の春逢ひますから、随分達者で居て下さい」と小さい聲が遠くに聞えますので

京ちやんは、ハツと思つて見ますと、もう小蝶子之助は居りません、京ちやんは驚いて。

「子之助！子之助！」と續げざまに呼びました。が何んの返事もありませんでした。

その明日も、その又明日も、子之助の行衛を探しました、遂々行方が知れなかつたのです。

京ちやんは永い月日を暮らして來年の春の來るのを心淋しく待つて居るでせう。小蝶子之助は秋の風に連れられて、神様のお側へ歸つて終つたのです。

(小蝶子之助の巻をばり)

吝嗇の誠

小島松之助

ドクトル、スピフト氏は第十七世紀の末に於ける英國知名の文學者にして、夫のガリバー、トラ

ベル即ちガリバーの旅行日記を書き當時の社會を嘲り飛ばしたる人なり。氏は性質淡泊にして稍輕卒なりしが、又有名の畜家なりき。

スッキフト氏の家に、其友人より數々菓實或は遊獵の獲物など進物として持ち來る一小童ありけり、然れども氏は流石文學者にして淡泊なるが爲に未だ一度も少しの心付けだになしたるをなかりけり。

或る日小童例の通り澤山の進物を入れたる籠を待ち來り、スッキフト氏の門戸を敲けり、氏は自

ら戸を開きて之を迎へたり、小童いと無作法なる顔色にて曰はく「茲に私の主人が進らせし澤山の物があります」と、ドク

おむすび と ねだんご と か  
けつくらしをしました、いつでも  
ねむすび が まけますから、な  
ぜ、そんなに はやいのですかと  
ねむすび が ききましたら、わ  
たし いつも あづきつけてい  
ますから と ねだんご が も  
— しましたとさ

トル先生は小童のいかにも無作法なる舉動に氣を損じながら、曰はく「入ひれよ小僧よ御前は疑が悪い様に思はれるが凡べて使ひは叮嚀にせねばならぬものだぞ、私が御前に其作法を教へてやるからね……今假りに小僧御前がドクトルスッキフト

で私が使ひであるとせよ」といひながら、ドクトル先生其帽子を脱いで小僧に一揖して曰はく「ド



クトル様よ。此れは私の主人が進めまゐらせしもので粗末の品で御座います、幸に御受納下さるれば寔に有難き仕合せに存します」といひたり。されば只今のドクトル(即ち眞の小僧)は「寔に有り難し、ごふぞよろしく御禮を申してくれ」といひながら、フキフト氏の机子の上におりし一小銀貨をとり「此れは少しだけれど、御前への賃だ」と云ふて與へたりとなん。

笑ひ草

二人の無筆 東京 は な 子

二人揃つて無筆の友達或町を通つて居ると、道側に「此處車は道并に置くべし」と高札を立て、居る。すると「甲君、此處に書いてるのが讀めるかね?」と「この位なもの、讀めなくつて……」

と云つて一寸首を傾けて見て「ハ、一中々甘く書けるな、手習は坂に車を押す如く油断をすれば後へ下るぞ」かどーだ君「甲「オヤ、えらいね!」君は、百人一首を空に覺えてるじやないか」

弟が下手 三河 近藤とさ子

或所に幼い二人の兄弟がありました。兄さんは温順くつて弟の方が敏捷いから、何でも兄さんより先へ手を出しますので、或日のこと、おっ母さんが弟を叱責つて「お前は何でも兄さんより先になるがそんな権利はない、弟は何時も兄さんより下手になるものです」と誠しめられました。夫から或冬の大變に寒い時でした。兄弟は箱火鉢の側に座つて温まつて居ましたが、お互に手を火の近くへ持つて行かうといふので又々此二人の間に口論が始まりました。で、おっ母さんは「又お始めか

ね、弟が無理云うんでせう」といって側に行らま  
すと、弟は「おっ母さん此間おっ母さんは、何事  
でも弟は下手になるもんだと仰りましたから、私  
は今手を温めるのに、兄さんより下手にならうと  
しますのに、兄さんが聞かないで矢張下手に來る  
んですもの」

### 狐のれ土産

#### 獨醒軒主人

近隣の獵師或る日山に獵に行つて諸所方々を  
かけまわつて居たが藪の蔭から年經た一匹の古狐  
が出てきた獵師は用意の肩の銃をふるしねらいを  
つけ火蓋を切れば過たず狐の横腹を打ち貫いた。  
狐は苦さの餘り瀕りに土手の所を掻きまわしてと  
一と其場に死んでしまつた、獵師は狐を持ち歸る

一とした所が山芋を澤山掘り出してあつた、此れ  
は狐が苦さのあまり掻き出したのであつた、獵師  
は大に喜んで山芋を包む爲めにそこいらの萱を切  
りにいつた所が此にも雉子の卵子が十三ありまし  
たとさめでたし〜

#### 懸賞考へ物當撰ひろ一

- (1) 十八を二分して鳥の名一つ。はと(八、十)
- (2) 六を二分して草の名一つ。いちご(二、五)
- (3) 二十四を二分して家道具の名一つ。ごとく(五  
十、九)
- (4) 千〇十を三分して日本の札所。那智山(七、千

#### 三

(1) 私は大變子供に好かれる滋養品で、原籍は外國  
です。頭の數と足の數とを合すと十二になりま

す。倒に立つと菓物の樹になります。みるく

(三〇、九)

受賞者

●一番。中村秋香著 菅公傳

赤坂區新坂町六番地 淺岡はま子

●二番。金昌堂發行 加藤清正

麹町區土手三番町三十九番地 岡松磯次郎

●二番。同 兒童候文例

牛込區北山伏町二十三番地 尺 秀 實

先月九日何れも賞品を發送しました(やまとの翁)

●おことはり。

さて此仕方ですと、地方の方は何時も遅くなって損です。から此次からは懸賞の仕方を次の様にします。

●懸賞問答

皆さんのお考の甘いには、さすがの翁も驚きましたね、じゃあ、今度は中々そー一寸は答への出来ない問を出しますから

- (一) 一羽の鳥を にはとり とは？
- (二) 幾つあつても じゅーぼこ(重箱)とは？
- (三) 衣るものでないに させる(煙管)とは？
- (四) 一枚の紙を はんし(半紙)とは？
- (五) 真中を通りながら はし(橋)を渡るとは？

これ 皆甘くれ答の出来た人には、またく三人まで 御褒美く。

- 切期限 本月十五日までに到着の中で撰ぶ
- 解答は封書に限る。端書は無効。封紙には婦

人と子とも投稿とお記し下さい。

●女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーザー會宛のこと。

●當撰御披露は第八號で。

◎第二卷第五號懸賞考へ物解答

及受賞者の披露

一、十一を二分して世界中の一國名。支那(四七)

一、二十を三分して我國著名の高山。白山(八九三)

一、十四を三分して裁縫必要品。剪(八三三)

一、二十を三分して我國著名の都會。名古屋(七五八)

一、十二を二分して日々必要品。箸(八四)

右の様に解答せられた方で、節番に當った方に

は兼ねて御約束の通り左の如く差上げました。

一。五十錢の小爲替證一枚

(一番) 東京 増田とよ子 (十番) 東京 佐藤 圓子

(二十番) 大阪 野田 小春 (三十番) 廣島 中川 秀子

(四十番) 長崎 岡本 義男 (五十番) 鳥取 中山 芳治

(六十番) 青森 吉川 春子 (八十番) 福島 安藤 美子

(九十番) 滋賀 鈴木 ぶん

一。金壹圓の小爲替一枚

(百番) 三河 鈴木かなへ

其他の方百六人には皆雜誌一部づゝ呈上致しました。

右 愛知縣西加茂郡 加納 貞子

筋生村大字黒笹 鈴木 はる

記者白す。百六人の方々の御名前も記載する筈ですが、餘白なきに付略しました。

# 家庭



子供に聞かせる話につきて

東 基 吉

話を好むといふことは、殆んど以て生れた子供の天性でありまして、恐らく話を嫌ふ子供といふものはありません。『お父つあん、話をして頂戴！』おつ母さん 昨夜の續を聞かせて頂戴！』とは、毎日毎夜可愛い口唇から溢れ出る望みであります。何度聞いた話しても宜い、たいも一人から話を聞かすといふことが、彼等に取りて此上も

ない面白さの様である。だからして、『もー私は残らず話して仕舞つた、もー話は何んにもなしになつた』といつて、切り抜け様としまして、中々承知しません、反つて向から注文します『そんなら桃太郎の話を もー一度』かち／＼山でも宜いから』と云ふ具合で。若し吾々から話して聞かせてやらないとすると、自分から作り出します。いろんな所から材料を持つて来て自分等でさまざまに想像を加へて話を慥らへます。これで見ても、咄しが如何んなに彼等にとつての生命であるかといふことが知れませう。

或學者が、大人が三年大學で勉強するよりも、生れた子供が三年間の間に得る所の知識が、どれ程多いか知れないといつた相ですが、これは、無論種々な方面から得るのに相違ないのですが、子

供が話を聞かされるに依つて、得る所の知識といふものも、其大部分を占めて居ることは疑わらざせぬ。だからして、子供に聞かせる話に付きては餘程注意をしなければなりません。先づ話の重要な効用の一つ二つを記して見ませうか。

一、社會の關係を知らせるのです。世の中の即人間界の關係といふものは、種々複雑になつて居まして、到底幼兒には理解は出来ませんけれども、昔話で見ますと、其關係がまことに簡單明瞭に顯はれて居ます。正直でなければ世の中は渡れないとか、不勉強では生存が六ヶ敷いとか、長上には従順であるべき事だとか、弱者は助けべきものだとか、其他種々因果應報の適面なことに、善惡邪正の判別を、まことに分り易く話に顯はれて居ますから、知らず／＼此時分の子供を

して人生といふことを理解せしめ。將來社會に立つ事の準備を與へ道德上の判斷識見を養成することに成ります。

二、子供に立派な考を抱かせます。六ヶしい言葉で言ひますと、子供に理想を持たせることになりません。桃太郎は知仁勇兼備の大將として。子供の尊敬の中心點になつて居ますが、ケ様な話を聞く度に毎に子供は、此時分からして既に、自分は桃太郎を氣取つて居ます、即彼を自分の理想として自分の行を出来るだけ彼の如くならしめようと望んで居ます。一寸だいをこねるとかあつても桃太郎は決してだいをこねなかつたといつて聞かせる。子供は忽ち肅然として襟を正します。

三、子供の同情心を發達させます。つまり種々な關係が話の中に顯はれて居るのでありますか



ら、子供は子供ながらに、種々な境遇に身を置く

ことになり得ます。舌切り雀の話を書く時には、舌を切られた雀の位置に子供は全く其身を置いて見て、雀の苦しさを思いやり得ます。同情といふことは、つまり人の境遇に、自分の身を置くことでありまして、これが即道德の根本となるのであります。大低の悪事は、實際残酷な悪意からして行ふことよりは寧ろ他人の境遇を想像して其位置に自分を置いて見る力が缺乏してゐるから起るのだといひます。而して話は即此力を養ふものであつて見れば、此時分の子供の道德の根本を養ふものといふべきです。

其他數へ立つれば、澤山ありませう、子供に他人の考を了解させる力も得させますし、言語を收得させることにもなり、其他種々な知識をも得させ

せします。

然しながら、總べてのお話が悉く此の如く、有益で無害だとは申されませぬ。即話の材料によりては反つて聞かせない方が宜いのも澤山あります。ですから話にもよりけり得、教育上有益な話と有害な話とがあることは申すまでもありません。例令ば

- 一、繼子苛めの話、
- 一、動物虐待の話、
- 一、非常に残酷な話。
- 一、動物妖怪等に對して恐怖の情を起させる話、

一、詐偽奸計等凡不徳義の成效を表明せる話、等は子供に聞かせたくない話の重要なもので、稍大きくなつてから、盜賊の傳記など（鼠子僧とか、

辨天子僧とかの様な)の様なものを聞かせるなども最も宜しくないと信じます。

猫が物語つたとか、狐が話をしたとか、即動物や無生物が人間の様に顯はされて、其中に道徳上の訓誡を寄せて居る寓言とか、其他之に似た童話とかを聞かせるのは宜しくないとかあるとかの議論もある様です。之等のことや、尙右に擧げた有害だといふ話については、次にお話をすることにして、こゝでは大体子供の話といふものは、教育上これ程の効能があるから決して忽にしてはならぬといふことに留めます。

### 日常の作法

雨 森 釧

作法といふ事は世間一般に注意致すやうになり

まして、小學校より高等の學校に至るまで女子の學校であれば、恐らくは此科の設のない處はないであらうと思ひます。併其學校にて教しへられた作法か實際實用になりて居りますのは何程位ありませうか。

今諸種の學校にて教しへられて居ります作法は座作進退より品物の進撤配膳まで一通の者につきの扱ひ方で御座います、是等一通の事は貧富貴賤の別なく心得て居らなければなりません、夫故今日の處では何處でも注意して練習を致しますから、大概教はりた丈はちやんと出来ますが、日常手近き周囲の作法には疎い人が多いではないかと思ひます。

作法といへは着物を着替へ、足袋などもはき直しまして整頓した部屋でなければ出来ないかの様

に考へて居る人もある様で御座いますが、此處で申します日常の作法は、左様に究屈な者では御座いません、即すべての物を鄭重に扱ふといふ事に常に自分の身の周圍に接近して居る極手近な所のものに對する取扱方を申すので御座います。

今例を擧げて申しますと戸障子の開閉で御座いますが、是には座禮立禮共に作法があります事で御座いますから、委しい事は申しませんが、此戸障子の開閉について少しく氣をつけなければならぬ事があると思ひます。戸障子は凡て靜かに開閉しなければなりません、即荒々しく大きな音の致しません様にするといふ事で御座います、殊に開き戸は荒くなり勝て御座いますから氣をつけて出来る丈靜かにしなければなりません、長き廊下などの雨戸或は窓其他の硝子戸等も可成靜かにし

なければなりません。開閉が亂暴で御座いますと戸障子が早く損じまして不經濟なばかりでなく、如何にも其人が亂暴に見えます、殊に病人などあります時には病氣に障りますから一層氣をつけなければなりません。

又戸障子は開放をしないやうにしなければなりません、元來戸障子は必要ありて設けた者で、必要がありて開閉をするので御座いますから閉ざしたる戸障子は出入の後必ず閉ざして、おかなければなりません。今直ぐに入るからと思ふても必ずわとは閉ざして置かなければなりません、又全く閉ぢた積でしめ残をする事も御座います、是も亦見悪きもので寒き折などには誠に困ります、諺にも馬鹿の開放とか申しまして、昔より開放を致す人は馬鹿であると申しまして、開放はしないもの

といふ事を教しへた者で御座います。是等の事は六ヶ敷事でもなく、少し氣をつけさへすれば出来る事で御座いますから、子供の時からよき習慣をつくるやうにしなければならぬと思ひます。

子供は依頼心の強きものか、又一般に大人の干渉の過ぎますのか、子供相當に出来ませす事でも人に頼むといふ傾があるやうに思ひます。よし子供に依頼心あるにしても、大人の方で容易い事から子供を活かせて参りますと子供は造作もない事に出来ません出来ません爲て頂戴と申す様な悪しき習慣はつかない事と思ひます。大人が何も角も手を下して世話を致しますは、親切な様で却て親切では御座いませぬ。戸の開閉に致しまして子供一人にて開閉が出来ませす様になりましても尙大人でなければあかないものと思つて開けて頂戴

と申します。すると直に開けてやりませすあけて貰へるもので御座いますから其あとの仕末などは少しも知らないといふ事がだん／＼習慣となり、一人で戸障子のあけたてが出来る様になりまして、あとの仕末を致す事をしらないで開放しても、閉残をしても左程不作法とも思はないのであらうと思ひます。それゆゑ子供の時から戸障子の開閉は静かにすべき事又開放としてはよくないといふ事などを教しへて置き度と思ひます。

開放の僻がつき升と、兩戸でも戸柵押入などの戸でも開放してうつかりとして居る様になりませぬ、若兩戸の開放を致しますか、盜賊の患を免れません。戸柵押入などの開放を致しましたならば鼠の害を受くる様の事がありまして、是等の不注意より起る害は少なくありません。

傳染病

醫學士 長瀬復三郎

(8) 流行性感胃

流行性感胃即インフルエンザは男女老幼、貴賤の區別なく、感染し天氣氣候に關せずして流行し、其流行時には之にかゝるもの非常に多く全人口の三分の二位は之にかゝる事があります。而して四年乃至八年毎に大流行があります。此他にも此病の症狀を呈すものは毎年呈はれます。これには一度かゝつても天然痘の如く免疫を得ませんで數回かゝります。又幾度も罹り易くなる例がある其病原菌は咯痰の中にある細菌で千八百九十二年にブライエル氏が発見されました。而して此細菌の附着した衣服、物品家具等によつて傳染します。

其症狀は神經性、カタル性、腸胃性の三種があります。又此の三つを兼て呈はるゝのもありますが、多く初めは倦怠と軽度の熱などの前驅期がありまして、次に眩暈、胸痛、頭痛など即ち神經性の症狀が多いのもあり、又一方には結膜カタル、氣管枝カタルといふ様にカタル性の症狀が多いのもあり、又一方には食慾が少なくなつて下痢、嘔吐などの腸胃性症狀があります。而して之等に伴つて三十九度から四十度位の熱に上り此の熱は一日乃至數日を下ります。以上は普通の經過で且つ大人の症狀であるが子供のもこれと同じである。

右の高熱の時には往々肺炎またはチブスなど疑ふことがあります、而して尤も注意すべきはカタル性のもので、これは毛細氣管枝を胃し肺炎肋膜炎等の合併症を起すことがあります。此は特に

老人と子供に付て注意しなければなりません。又  
 細菌の爲に化膿性の中耳炎、腦膜炎、腎臓炎、又  
 神經性の病及結核の原因となることがあります。  
 發病後一週より三週までは尤も攝生に注意すべき  
 時であります。申すまでもなくこの病は尤も傳染  
 の速かなものでありますから、學校とか幼稚園と  
 かの様に多人數の集まる所では此病の傳播しない  
 様に能く氣を付けなければなりません。そこで此  
 の病の傳播を防ぐには、患者を隔離すること。患  
 者の衣服、蒲團、家具等を消毒すること、ことに  
 咯痰は十分に消毒することが必要であります。

(9) 腸室扶斯

これは腸室扶斯患者の糞便の中にあるエルベル  
 ト菌が病原となるもので、これが腸の粘膜を胃し  
 其のために腸の粘膜は荒されて一の炎衝を起し高

熱を發し又は神經性の症狀を起すのであります。  
 一體この病は子供には特に五年乃至十二年の子供  
 に多いもので其症狀は大人に比べると軽いもので  
 あります。即ち只僅に悪寒がして發熱し、此の有  
 様が三週四週も續いて居るもので、大人の如く神  
 經性の症狀を起すものは極めて少く倦怠、食慾の  
 減少、頭痛、不眠などが起ります。熱は流行性感  
 冒の如く突然上らすして初めは三十八度位から漸  
 次四十度位に上り、朝と夕とに餘りかはりがなく  
 引續いて三週位から漸次下りて平温に復します。  
 又三週位から突然平温に下つて後に三十七度以下  
 即ち三十六度位になつて漸次平温を以て經過する  
 ものもあります。其熱の高い時には嚙語を言つた  
 り、また神經が過敏になり眩暈、頭痛、心臓麻痺  
 等を起すことがあります。但し斯様な症狀は子供



には餘りありません。

此病の豫防法は、患者を隔離すること、排糞物部屋、病床等を十分消毒すること、又窒扶斯患者のある家のバチルスが入りたる水、牛乳等を消毒して用ゐることが必要であります。又窒扶斯は結核等の合併症を起すことがありますから大に注意しなければなりません。

(10) 赤痢

これは腸カタルの模様で度々下痢し、其下痢する物の中には血液が混濁して居ります。其病原に付ては定説がありません、熱帯に流行する赤痢にはマメバーがあつて傳染の媒になるといふ説があります。先年緒方博士が矢張一種のバチルスであるといふことを述べられました。近年に至つて一種のバチルスである事が、説かれて居りますが

未だ一般の確認を得たものではありません。兎も角も子供が腸カタルを起して高熱を伴うてしまふ其便が頻回で其便の終に白い粘液が出て中に赤いものが線状又は點狀に附着して居るのを見た時には殊にそれが夏で赤痢流行時であつた時にはよほど疑を置かなければならぬ。凡て子供は病氣に抵抗する力の少いものですから下痢が一時間に一回以上で腹痛と渴が之に伴て患者が苦痛を感ずる様ならば速に醫者に見せなければなりません。又度々廁に行つて腹痛を起し裏急後重を伴つた時にはよほど用心しなければなりません。

赤痢によく似て九州では疫痢、名古屋地方では颯風病といふのがあります。之は赤痢の便とちがつて赤色を有することが少なく又下痢の回数も多くはありませんが四十度位の熱で忽ち衰弱して心

臓の作用を鈍くし又麻痺を起します。僅に二十四時乃至三十時に死するものが時としてはあります。以上は唯傳染病中の二三の重なるものを述べまして御注意を引起す迄です。

今昔いろは料理

石井泰次郎

(れ)

料理たけのこ拵へかた

竹の子の本を切て、内をくりぬき摺魚肉とて魚肉を細かにきりてたゞきて、播盆にてすりたる物をつめ、又は玉子などを流しこみて、口をして、火に入れてやくべし、やけたるのち皮をさりとて、色々に小口切にして用ふべし、其まゝにても、又味をつけてもよし、内のくりたる所へ何もつめず

にもなすべし。

(そ)

拵へとうふの拵方

能くしぼりたる豆腐を、馬尾篩にてうらひし、て、播盆にてすりて、玉子の白身を豆腐一丁へ二つほどませてすりて、板の上へうすくのべて、尤板の上へ美濃紙を敷て其上へのばすなり、のぼしたる上へ又紙を一ぱいに敷て又豆腐をのぼし三だんもしてよし。

蒸籠に入れてむすべし、さて取出して、水の中へ板のまゝ入て、はがして切方すべし。

(つ)

包玉子の拵へかた

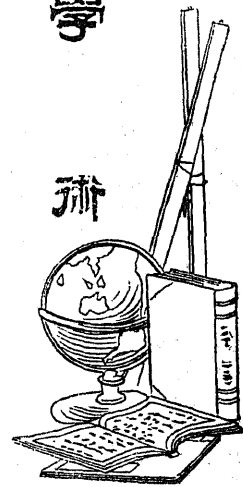
玉子を、小さきふかき器の中へ美濃紙ののりけなさをさまゝの形に押しこみて、其中へ玉子を

わりこむべし、さて其紙のはしをたげねて、紙捻にて結びて湯を煮えたゝせたる中へ入れてむすべし、其つゝみたる紙のひだの通りに玉子はかたまるなり、それを椀の中實にも、煮ても用ふべし。



# 學

# 術



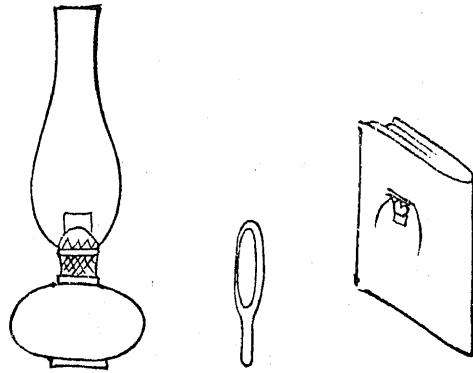
## 眼の話 (其一)

### 本郷生

物理學の方面から人間の眼を研究するときには面白いことが數多くあります、理窟に至極簡單で之れを知れば日常目撃する現象を説明せらるゝと云ふ場合も又少くはありません、されば以下順序を立て、少しく之れを述べて見ましょー。

皆様の家にランプがありますか、そして凸れんず(虫目鏡)がありますか、あらば夜の慰みの一つ

として先づ次の實驗をして御覽なさい、ランプを去る數尺のところにも凸れんずを置き、其後方數寸のところにも例へば手帳の如き白きものを置くこと上圖の如くし、其手帳を凸れんずに對して靜かに近づけ、又遠けて御覽なさい、或る距離のところにて倒



しまに小さく鮮明なるランプの火の像を見ることが出来ます。此位置をはずしては遠くとも近くとも像はぼんやりと致します(實驗第一)次に手帳と

凸れんずとの距離をかへずして、ランプをば遠ざけたり近けたりして御覽なさい、何れにしても像はぼんやりとします、而して前の如く鮮明なる像を得んには前の場合には手帳を凸れんずに近

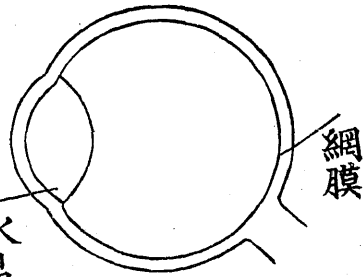
け、後の場合には之れを遠けねばなりませんこと  
がわかります。換言すればランプの遠ざときは手帳は近く、ランプの近ざときは手帳は遠ざを必要とする  
ことがわかります(實驗第二)  
も一つ凸れんず(例へば老人の眼鏡でもよし)がありますれば次の實驗をする事が出来ます。即ち之れをとりて前のれんずと並べておいて、其像を手帳の上になうつし見るのであります、若し此れんずが前のよりも凸隆の度が弱ければ鮮明なる像を得んには手帳をれんずより遠けねばならず、凸隆の度が強ければ近けねばならぬことが見えます

(實驗第三)

此等ランプとれんずと手帳との距離の關係は實際に試ひれば造作なくわかることで、而も眼の事を學ぶには極めて必要な知識であります。吾人が此事を知りて眼球を學ぶのは露の結ぶ理由を知りて雨の降る理を學ぶが如く、深く喋々するを要せぬ程のことでありませが之を知らずして眼球を學ばんとするは、いろはを知らずして讀書せんとするの類であります、且つ實驗は興味を興へ理會を助くる上に於て此上もなきものでありますれば文字によりてのみでは理會のぼんやりとして居る方は、是非とも以上の實驗をすまして然る上に次の文にうつらるゝことを望みます。

さて眼球の構造はと云ふに、大略左圖の如く、眼の内部は殆んどどろどろしたる透明なる液を以

て充されて居りますが、其中に水晶體と申して形に於ても作用に於ても甚だ前の凸れんずに似たる



水晶體

網膜

壁、所謂網膜と云ふ膜の上に鮮明なる像が出来ます、此網膜には視神經が分布してありますので、之れが爲め其像の出來たのが腦髓に傳はり、つまり吾等にランプが見えたと感じしむるのであります。

ものがあります。故に吾等が眼をランプに向くるときはその後方にランプの像が出来ます、しかも丁度眼球内の後方の

す。ランプに限らず凡て物が見えますのは皆此道理で物より來りまする光線が（太陽とかランプとかの光が一旦物にあたりてそれより反射して）眼中の凸れんず即ち水晶體によりて網膜上に物の像を現はすからであります。

茲に少しく疑問の起りますのは外ではない、第二の實驗の示すところによれば物と眼との距離が變れば像は鮮明の度を變ずるわけでありますから一間先きにありて鮮明に見えたるものは二間の先きでは不鮮明に見える筈であります、然るに實際はそいでないと云ふのは何の理由によつてであるかと云ふに、都合よきことには水晶體自身が眼球に附屬せる筋肉の作用によりて其凸隆の爲を變じ、場合々に應じて適當なるやうに調節するからであります、即ち物が遠きときは凸隆の度を減

じ、近きときは之れを増すからであります、之れが爲めいつも鮮明なる像を網膜上に得る所以の理は第三の實驗がよき説明を與ふるのであります。

しかし此調節の度には限りがあつて、近きものを見る折とてどこ迄も水晶體は凸隆の度を強むることは出来ぬ、近視眼の人でなくば通常四、五寸のところよりも近きものは鮮明に見ることが出来ない、之れ即ち實物が餘りに眼に近き爲め、網膜上の像が鮮明なることが出来ないからであります。近頃の學生中には近視眼の人が誠に多く、女學生中にも漸次其數を増しつゝあることでありますが、かく遠くが見えぬやうになるとは如何なる故ぞと云ふに外でもない、之れは水晶體が餘り凸になり過ぎて居るが爲め、鮮明なる像はいつも網膜の前にて出来るに由るので、他に眼球に故障が



あると云ふのではないのであります。故に凹面鏡を用ひて其凸隆の度を弱くすれば通常人と全様に見ゆるやうになるのであります。(實驗第三參考)

老人になると誰でも新聞などを讀むに目より遠けて見ます、之れは近くては却てぼんやりするからであります、其故は水晶體が餘りに扁平にすぎ、鮮明なる像は常に網膜の後方に出来るやうになるからであります(實驗第三參考)故に之れに用ふる眼鏡は凸面であります。つまり之れと水晶體とが相合して通常人の水晶體の如き働さをなすのであります。

理學の研究の結果、此眼鏡てふもの、發明なりせば今の學生と老人との内不便之感ずるものは如何に數多きことでありましょーか、此理學の賜なかりせば、春花秋月の美を賞することが出來ぬ

位のことではない、此文を書く吾等も亦凹面鏡の助けをかる一人、之れなくば通常人の如く働くことは到底出來ないのであります。

Fools die for want of wisdom.

愚者は知慧の缺乏の爲に身を亡ぼす。



## 史傳



津崎矩子（承前）

下村三四吉

村岡は、江戸に到着して、町奉行所の假牢舎に入られしが、程經て、松平丹波守の邸にあづけられぬ。百花の盛りもいつしか去りて、五月雨いぶせく杜鵑血に啼く頃も過ぎ、炎暑酷吏の如しとかもへるうちに、はや秋風身にしむ節とはなりぬ。村岡より先に此の地に送られける鶉飼父子、梅田雲濱、頼三樹三郎また江戸にて逮捕せられし橋本左内を始めとして、このたびの罪網にかゝり

し人々、前後評定所に引き出でられて取調べを受けたり。

さて、村岡も右の人々と同じく責問を受けぬ。「公家武家の間は、かねて私に出入相かなはざる法度なるに、鶉飼吉左衛門父子其外浪人どもを手引きして、主家への出入を助け、あまつさへ密勅下賜の事を贅け成し、は如何なる心得ぞ、詳かに申し開させよ」と。村岡答ふるやう、「私ことは主家の老女として上下内外の取次を致すが役目なれば、種々多数の人の取次はなしたれど、老人のと故今は残らず打忘れて候」と、意氣自若たり。其後同志の事につきていろ／＼の尋ねを受けけれども、たい知らず知らずとのみにて、一言も餘の答へなさいりき。係りの役人もこれに困じはて、更に「汝が主なる近衛殿下には平居如何にして日

を送りたまふか」と問ひしに、「女の身ゆゑ御内用の外は少しも存ぜず」と答へたり。勤王の志士たちにも主家にも煩を及ばざしとの用意周到なりといふべし。係官また「この頃とかく政事にたづさはりたまふと承はれるが、そはまことか」と問ひけり。こゝに至りて、村岡は、容を更めて、「尋ねたまふことのわやしきかな、近衛殿は、藤原氏の長者にて、官は左大臣にておはすれば、朝廷の政務にたづさはりたまふこそ當然なれ、いぶかりたまふには及ばず」と答へしかば、理り直しき凜然たる一言に、係官はかへす詞もなくして止みぬ。

その後、村岡は猶取調べを受くること數回に及びしかど、大抵の事は、多くは答へもせざりき。されば、もとより取り立てゝ記すべきほどのこともなし。既にして、さきに逮捕せられて鞠問を受

けし志士たちの罪案も、追々に定められ、切腹、獄門、遠島、追放、永蟄居、差扣、免職などあらゆるさびしき處刑にわひけり。村岡も死罪に行はるならんと、心ひそかに期する所もありしが、評定所にての申渡しは、意外にも左の如くなりき。

近衛殿老女 村岡

其方儀、かねて主家へ館入致す清水成就院隱居恣向(後即ち)引付を以て、水戸殿家來鞠飼吉左衛門悻幸吉、面會致し候節、同人義、水戸前中納言殿其外御慎、御隱居等仰出され候次第と歎かれ、主家御取持を以て右御方の御慎、解相成候様、内願致置候間、猶取成の儀相願ひ、使者申聞けるならば、如何の儀と心付き取合間敷候處、其儀無之、幸吉申聞次第主家へ申立、右一條に付幸吉より恣向の

内狀其方へ向け差越し候間、主家へ取立を差出しくれば旨、幸吉頼を承り、追て同人方より上書小札其方宛にて岩波と認め有之文箱差越し候を、右に入れ有之忍向戀名月照の文通を、同人罷越し候節相達し、又は主家へ取次ぎ差出せし始末、幸吉へ馴合筋は無之候共、右始末不届に付、押込申付くるもの也、かくて、三十日ばかり押込の刑を受けて、十月二十日に放免せられたり。死刑にも處せらるべきを、わづかのほどの押込にて事すみ、且つ其の間とても、とりあつかひの頗る丁寧なりしは、時の大御臺所（即ち近衛家の養女として入興ありて、第十三代將軍家定公の御臺所となられたる天璋院なり）が、村岡のよろづ御世話申し上げしことに報ゐんとて、さまざまに手を盡くして、救解せら

しためなりとぞ。

罪ゆるされて、京都に歸りし後、村岡はもとの如く近衛家に仕へたりしが、間もなくして、仕を辭し、里にまかりぬ。やがて、嗟嗚の奥に直指庵といふさしやかなる庵室を建て、世の交りを断ちて風月を友とし、ただ近衛家の先代并に西海の波に入りける月照の靈を祭り、その冥福を祈りて、静に行ひすましたり。後文久三年、福岡の女丈夫浦野望東が上京せる折、村岡の名を聞き、尋ね來り、和歌の贈答せしは、即ち此の庵室にてなりけり。

村岡か清寂なる生活を送りつる間に、時勢の變化は、轉はげしくして、暫くも止まらず、井伊直弼の遭害となり、京都に於ける攘夷黨と公武合体黨との勢力の消長となり、蛤門の變となり、長州

征伐となり、討幕密勅の下賜となり、轉回遷移の

極、王政復古の新天地は開かれたり。この間の事

柄あらざしは、さきにものせし望東尼の傳中に舉

げたれば、今は略しつ、村岡退隱の後は世事に關

せざりしかど、勤王の志はたゆる間もなく、王政

復古の大號令煥發の折は、我が願今はかなひたり

として、大に打喜びたりき。その後、西郷隆盛は、

折々此の庵に音づれ來りて、今昔の物語りに、或

は涙をしぼり、或は心慰めけりとぞ。

村岡は、世隱れの身となりたれど、これまで

の勤王の苦節はいかで埋もれ果てん。明治五年正

月左の恩命は下れり。

前年近衛家勤仕中、深く國事を憂ひ、戊午己

未之際、有志之徒に心を合せ周旋致し候處、

遂に嫌疑を受け、一旦幽囚に就き候得共、始

終志操を變ぜざる段婦女には奇特之事に候、  
依之爲其賞終身現米貳拾石下賜候事。

壬申正月十日 太政官

翌年八月二十三日、村岡は終に八十八歳の高齡  
を以て歿りぬ。後二十四年十二月十七日更に從四  
位を贈られけり。近衛忠熙公この大命をよるこび  
て、

霜がれし嵯峨野のはらのをみなへし、

苔の下にて花さきにけり。

たぐひなき惠のつゆの衣手に、

あまりてふつる我が涙かな。

とよまれたり。村岡の忠節、朝恩の優渥この二首

の歌にいひつくされたり。

村岡の事蹟の最も著はれたるは、勤王憂國の事

に在り、されど、村岡の事蹟より探るべき教訓は

その外にも多かり。余は更に多くを言はし、讀者のそれへの判断にまかせん。(完結)

五十三年の海山關の旅路より

古洲の上のこゝろやすきよ (村岡)

國學と荷田春滿

米

溪

國學とは如何なる學を云ふか、語脈を辿りて文典を正すの云ひか、典籍に涉りて故實に通ずるの云ひか、三十一文字に幽玄の奥を極めて目に見へぬ鬼神をば泣かしむる道なるか。否、國學の精神は歌を詠ずるのみにあらず、文を屬するのみにあらず、豈典籍の間に蠢爾として彼の蠢魚と相去る一步なるもの云ひならんや。文献徴すべきより

二千年、辭は一代の宗として當時を壓せしものはあり、歌は千古を絶して後世空しく仰ぐものはあり、然りと雖も眞に國家的精神を以て我が國の道を説きしもの果して幾許ぞ。文典可なり、倭歌可なり、典古の學決して徒爾に非すと雖も而も此の精神ありて初めて活學と云ふべきのみ、精神なきの學は將た何をか益せん。國學とは斯かる玩弄的の學にはあらずるなり、死屍的の學にはあらずるなり。

徳川氏覇府を開きてより昇平三百年、將門權を弄するもの幾んと八百歳、因習の久しき牢として拔くべからざるが如き礎をなせるものを倒せしは此の精神に非ずや。精神ある學は以て社會を動かすべし、維新の功は實に學問の力による、而して其の起る所蓋し徳川時代に在り、一道の潮流滔々

として今に及ぶ。維新以來三十年、長足の進歩は實に泰西人士の驚く所なりと雖も、之れ豈明治に起りて明治に成りしものならんや。謂ふに江戸の頃文運の盛なるに當り諸種の思想一時に勃發し、儒佛漸く離れて神道亦起れりと雖も、其の志想自から拘束せられて以て我が國体を發揮するに足らず、偶卓見の士此の際に乗じて起り、曠世の識を抱て我が國の古道を稱へ、慨然身を挺して國民的精神を鼓舞し、國學の基礎初めて此に定まる、吁此の偉人は誰ぞ。

天の此の人を生ずる偶爾にあらず。陰雲急にして雷電起り、北風吹き荒みて万岳雪に咽ぶ、時乎命乎抑も數あるか。元和偃武生民漸く肩を思ひしより、足利氏文學を熱視して擾亂支離遂に社稷を失ひしに鑒み、學事を獎勵し、學者を優待する至

らざるなく、以て陣頭に收めたる霸業を文學によりて維持せんと欲す、而して之等の學者、稱ふる所は程朱の説のみ。其の後惺窩等の門人漸く多く學者彬々として輩出し、儒佛の二道漸く離るゝに至りしと、神道は尙根底を儒に托するものなり。此の時に當りてや、自習研究の風盛に起りて宋學出で、仁齋徂徠亦復古學を稱へて世に鼓吹するに至れり。

煩鎖なる規則の下に歌學を置くの不可を稱ふるあり、下河邊長流釋契仲等亦万葉の古調を研究し契仲の如きは國學に獻替する所少々ならざりしなり、然れども之れ歌道のみ、未だ我が國の道を發揮せんとせしにはあらざるなり。日本の古道を辿りしものにはあらざるなり。

吁偉人出てざるか。彼の儒道に酔て此の國本を

忘れ、本朝通鑑を撰びては、日本を大伯の裔なりと稱して却て名譽と思惟するものあり、自己の名の漢様ならねばとて、故ら文字を省略して自から得たりとなすものあり、支那を尊ひて中華中國となし自ら夷狄を稱して恬然たるものあり。偉人出でずんば夫れ國体を奈何ん。

天乎時乎抑も亦數なるか、王城の東伏見の里、偉人あり生る。

稻荷山今日は小鳥の音を絶て

音するものは谷川の水

之荷田春滿九歳の時、稻荷祠畔に於て詠したる所に非ずや。森深くして風聲なく、溪流畫を擅にして鳥何處に在る、黃鳥一たび囀て世春を知る、此の人出でずんば誰れか斯の道を知らん。

春滿謂へらく、日本の道を求め古道古義を唱へ

んとするには須らく之を古文學に求めざるべからずと。

蓋し國各其の体あり、國体の精華は其の特異の光彩を含む所に存し、而して特異の光彩は國民性情の發揮する所に基く、されは國体の精髓を知らんと欲すれば唯其の古道を尋ねて國民性格の基く所を求むるにあらんとす。春滿の古道を稱ふるや寧ろ漢學者の復古説に根せるものなきに非ずと雖も、漢學者流の往々國の大本を忘るゝものあるを慨せしなり。

(ついで)







文苑

偶作六首

佐々木信綱

なら林くぬぎのはやし一すぢの

小川めぐれる我いへるかな

山かげの我すむ家はせまけれど

妻あり子あり春のかぜよく

なつかしき母のみ面わふと消て

燈火くらしさみだれのおと

大寺のいらか高くも見ゆるかな

里をつゝめる朝きりの上に

もろともに遊びし野邊よ池よ山よ

又いつの世か共に見るべき

たゞよへる夕べの雲を仰ぎみて

何とはなしに物ぞかなしき

鶏 竹柏會同人

増山三雪子

わかつきの夢おとろかす家つ鳥

老はねざめの友とこそ聞け

板倉 止子

時つくる其いさばしは世の中に

庭鳥にますとりはあらじな

板倉 藤子

賤の女がうたふ田歌も静まりて

晝げいそがす庭とりのこゑ

松平 岳子

庭鳥のしのゝめ告ぐる聲きよし

疾く起出て、朝きよめせん

安東 菊子

人もかくあらまほしけれ曉の

八こゑの鳥は時をたかへず

堀越 しな子

あなたにて鳴けば此方も聲あはせ

ことありけにも庭鳥のなく

雛鳥をはぐゝひ親のさま見ては  
大村 八代子

わか身も更に親をしを思ふ

送りこし人とわかるゝ村はづれ  
佐藤朝恵子

庭鳥なきて夜はわけにけり

迷ひ入りしみ山の奥のついは  
松浦島子

人やすむらん庭とりのこゑ

わからむと羽ばたきませる親鳥を  
中村文子

まぢわびて雛のとやの内になく

あすよりは背戸に放ちて遊ばせん  
白岩つや子

昨日かへりし庭とりのひな

庭鳥をとりの猫にうばゝれて  
久保花子

中たかひせるをさなごち哉

清 水 晴 子  
のら猫に子を奪はれし其夜より

わか庭つ鳥よなきそめたり

市田 豊子

とんぼつる里の幼子うちつれて

ひなの庭鳥かひちらしゆく

山本 芳子

みな人は田畑にゆきて賤か屋の

静けき庭にはとりのなく

池谷 久子

五月雨にをぐらくはあれと短夜の

早明ぬらしにはとりのなく

小林 茂子

こがひするわざ忙しき一つ屋の

軒端まぢかく庭とりのなく

關屋 愛子

竹垣もまばらにゆひし賤か屋の

うちとあらはに庭鳥あそぶ

池谷 朝子

咲たわむ卯花垣根めぐりみれば

庭とりわそぶ川ぞひのいへ

清 水 錦 子

山ふかく川きよきところ君と二人

庭とりかひて宿をしめばや

佐々木信綱

舟窓によりそひ見れば薰ふきの

家居みつ四つ庭とりのこま

琴の音

今宵の月に

あくがれて

鷺水

里の小川に

来て見れば

誰がむすびけん

程遠き

彼方の岡の

伏やより

かすかにもるゝ

琴の音に

思ひ出けり

故里の君

此世の旅路

東くめ子

あはれ憂き世と

世をかこち

はかなきものと

余りに弱き

余りにもろき

身をなげく

人の子よ

人の子よ

此世の旅路

この世の海路

道けはしとて

波あらしとて

山たかく

波あらし

泣くべきか

なくべきか

ふるひたゝずや

叫ぶをやめよ

戦ひまけし

憐をこふ

人の子よ

行路難

兵のごと

人のごと

蝶

小畑いく子

胡蝶や胡蝶やせてふ

何をもとめてそこはかと

庭の芝生をさまよひぬらし

白く妙なる汝がはねの

しほれく〜て見えけるは

雨にそぼちし爲めのみならじ

馴れて契をこむらさき

ともにすみれの花の香を

忘れかねてや春さへすぎて

卯の花くだし日數へて

ふりにし跡をこひしげに

訪ふも哀やものぐるほしく

汝はしらずや世の中は

うつろひやすき花ごころ

咲くも一時なさけもいろも

きたれ胡蝶よ諸ともに

うき世がたりの友として

小さき胸のうさはらさなん

一聲

つねを

杜鵑一聲

さみだれは

ぐまなくはれし

夕ばえの

あやなす雲に

日は落ちて

蜀山萬里

つきしろし

師を懐ふ

獨醒軒主人

散る花にいとわはればまざりけり

君と詠めし春を懐ひて



# 説林

## 動物愛憐と教育 (承前)

本田増次郎

蝦蟇。これは其形がみにくい者であるから、杖でうつたり石など投げる人が随分多い。けれども佛國では入用の者として之を育て、一疋三十錢乃至五十錢で賣買して居る。之は庭園に於て害虫を除く働をするからである。蝦蟇に付ては英の公爵ウエリントンに關する逸話がある。其家僕の子供が園の隅に蝦蟇を飼つて居て、毎日

食物を與へて居つたが、學齡に達して學校に行くことになつたものであるから、其蝦蟇の世話をする事が出来ぬのを悲んで泣いて居た。公爵は庭に泣いて居る子供に其故を聞いて、自分が引き受けて蝦蟇を飼ふてやることを約束して學校に行かせて、其後度々自筆の手紙を其子供に送つて、蝦蟇の安否を學校へ報じたといふことである。」

牛。米國のダニエルウエブストルは多くの牛を愛飼して居つたが、其死ぬる直ぐ前に、愛して居る牛を一々窓の前に牽きださせて、一々其名を呼んで別を告げたといふことである。牛は決して愚かな物でない能く恩を知つて居るエーデンチエル氏の實驗によると、或る牛が牧場で長い綱で木につなかれて、其綱か足にもつれ

て困つて居た者であるから、通行かんか之を見て其の綱を解いてやりましたのに、牛はうれしげな眼つきをして恩人の傍に来て、其袖をなめたといふことである。このなめるといふことは、動物が非常の親みを表はす禮である。

魚。アガシーは魚でも取ると直ぐに頭の後を、石又は棒で打ちて殺せよと教へて居りますこれは残忍を避けるばかりでなく、長く苦しませるのは其味を失ふからである。

猫。ダンテは其の猫に教へて蠟燭を其の足に持たせて、自分の讀書する傍に侍させました。ある友がある夜、箱から鼠を出してダンテの机の上に放ちましたから、猫は蠟燭をすて、鼠を追うたといふことである。

豚。これは愚な者の様にいはれて居て、豚兒など

いふ引き合ひに用ゐられて居るけれども、豚もよく教育し、研究すると面白いものである。

ある蒸氣船の中に一つの豚と犬とか乗せてあつて、共に仲よく遊んで居つた。犬のためには寢場所がありました。豚のはありませんでしたから、互に一つの寢場所を用ゐて居たけれども狭いケネルであるから二匹一度に入ることには出来ない。風雨の時などは共に相争つて占領して居つた。或る風雨の夜、犬が先づ之を占領して豚が入ることか出来ぬ。そこで豚は一つの豚智を出して、食器のある所にいつて、切りにビチャ／＼食べる音をさせた、そこで犬は其音を聞きつけて、御馳走か出たと思ふてケネルから飛び出したものであるから、豚は忽ち其場所を占領したのである。

こんな話しは幾らもありますが先づこれ位として

世界各の統計によれば、殺人犯の大多數は其

職業か殺生業の者である。又動物等を愛護する國

ほど殺人犯が少ない。是等の事實は決して軽い問

題ではない。故に幼少の時から動物を愛護するを

を教へることは甚だ大切なることである。(完結)

編者白す。本論は本田高等師範学校教授が、本會總會の席上に

於ける演説の大意を筆記せるものなり。筆者の拙なるがため、

演説の趣味の大部分を没し去りしこゝは切に謝する所なり

尙前號に(完)とせしは編者の粗漏として併謝す。

橋梁の觀察

野口保興

「フレーベル」會の設けられて有るといふことを

私は此學校に奉職ことでござりまするから、以前

より承知して居りましたのです。所か自分は平常

に教へる學課から縁遠いといふので、或は、そん

な風に殊更に考へました譯でもないのであります

が貴會の方からも私に對して、さういふ考への様

に私には考へられました。「フレーベル」會が私

の學課に縁遠いのは縁遠いに違ひない、併し又少

々忌や味には相成まするが貴會の方でも、私が此

會に出席しましたならば、矢張心理か數學の講義

でも、するのであらう、さうならば「フレーベル」

會には餘り入用でないと思はれるであらうと思ひ

ます。さう思はれませぬでも、實際縁遠いのであ

りますから、少しもお恨み申す筈はないのです、

所がどういふ譯でございますか多分演説者に御困

りに成つたからでしょうが一昨日でしたか中村

さんからの御依頼で、明後日「フレーベル」會で

何か話をしてくれまいかといふことでありまし

た。さうすると、唯今申上げた様な考へでありませうから、貴會員の方でも別に御反對でも何でも無いのですし、私の方でも、反對する理由も何も無いのですから、直にお受は致しました。さうかと謂つて、始めから、御集りになりました、皆様に向つて保育といふことに就て、關係の有りさうな面白い話があるといふではなし、又用意する程の日時もないのでありますから、お受は致したものと立派に御話かできぬのは残念でもあり、申譯のないことです。

そこで私が貴會員に御話して置きたいのは、世の中には随分有益になることでありまして、それを始めから敢て迎へないやうのことが幾らもあつますと云ふことです。其一例として御話することでもありませぬが私は平常、考へまするに、何

でも物は、彼れも詰らぬ之も詰らぬといふ人か随分ある様ですけれども、殊に此普通教育に於ては大したことは無いと謂つて捨て、過つたならば、殆んど好材料は無くなつて仕舞ふだらうと思ひます、そこで此頃或る席で聽きました悪口のやうではあります、斯ういふことを聽きました。今日の普通教育は形式に亘つて居つて、實際の活用に乏しい、といふ批評を聽いたのであります。之を謂ふ人は勿論、普通教育に全然で縁故のない人でもないのである、活學實驗に就ては、吾々は先輩として仰かなければならぬ所の人であつて、決して單に冷評を加へたといふのでないのであります誠心誠意を以て現時の教育を觀察致しましたら如何にも形式的の所かあるに相違ありません、貴會員の御研究になつて居る保育といふやうのものも、形式



的の保育でないとも限らない。其形式と謂ひ、形  
 ちばかりといふは、別に悪口でも何でもない、運  
 動場が廣いとか恩物を改良するとか申す様な、唯、  
 形の上に顯はれ形の上に出て來る所の者のみを主  
 として保育と社會との關係とか、下層社會の幼兒  
 保育と申す様な重要問題を末にする事があらば  
 之は即ち形式的の保育と謂つて宜しからうと思ひ  
 ます。之は吾々普通教育に従事して居る所のもの  
 餘程注意しなければならぬとであらうと思ふ、  
 一例を舉げて申しますると、就學兒童の數が百人  
 に對して、一昨年は六十八余であつたけれども、  
 昨年は七十五人、當年は八十三人になつたのは世  
 の中が段々普通教育の進歩するのであると斯う申  
 します。就學者の數の殖えたのは、大層著しい六  
 十七人が八十五人になつたと謂へば素より喜ばし

四十六  
 い事には相違ありません、併し數の上に就ては成  
 程進歩はしたでありませうけれども、其數が八十  
 五人になつても他の普通教育の目的とする所を考  
 へ内容の如何に注意し全般の點に於て進歩して居  
 るや否やを觀察せねばならぬのです、形の上に就  
 ても數の上に就ても、進歩があるは勿論結構です  
 進歩には違ひませんが、斯様な點のみを重すると  
 せんか普通教育は形式上丈に止まるといふことの  
 評を蒙むるの餘議ない次第であります其他、授業  
 上の事に關しても形式のみ存して居つて、實際に  
 は役に立たないことがあらうと思ひます。斯の如  
 き點から評せられて今日の教育といふものは形式  
 的であつて、實用に乏しいといふことを謂はるる  
 ののでありませう。

(未完)

## 本邦古代保育法の一斑

## 下村三四吉

兩三日前中村先生が私に「フレトベル」會の席上で何か話をするやうにとのことでありました。併し。私は、保育の事につきましては、門外漢でありまして、格別御参考になるやうな話も出来ませんので、一應は御断りを致しましたれど、何でもよいからといふことでありましたから、今日こゝに罷り出ました次第です。

私は古い時代のことを調べる學問を致して居りますゆゑ、やはりそれに關係のありますことをお話しして責を塞がうと思ひます。それで、こゝに掲げてある題には、本邦古代の保育法とありますけれど、題があまり大き過ぎて、内容は大層少ないのであります。最も古代と申しまして、誠に茫

乎と致して居るもので、昨日は今日の昔で。昨年  
は本年の昔でございませう、過ぎ去りたる時は昔し  
でございます、十年前百年前、千年前……等はも  
とより昔しです。もつと極遠い場合には、昔し昔  
しの大昔しなどと申しますが、どれ程の數になる  
か、極不明であります。このやうに古代といふこ  
とは不定なのですから、若しこゝの古代の保育法  
を過去の保育法ととりましたらば殆ど際限のな  
い話で、且それ丈の調べも致してありませう、又  
僅な時間で話すことも出来ませぬから、茲に我國  
の古代と申しますのは、支那の文化の影響をそ  
れ程受けなかつた迄の處で、日本の歴史の方で通  
例上古と申して居ります時代と定め、その時代  
の事柄をお話する積りであります。それも、事件  
の詳しい所は却々調べてありませぬから、どうぞ

その御積りおつづで御聴ききを願ねがいたい。

前に申まをしました我が國くにの上古じやうこには、國民こくみんがものを書き記かすといふことを知らしない、時代じだいがありました。最も上古じやうこの凡おおよそ半はんは以後いさは、支那しなの文字もんじを借りて種々しゆくの事柄ことぢらを記載きさいするといふことが起おこつて來きました。先まづその以前いぜんには、言葉ことばといふものは發達はつたつして居まりましたれど、之これを書かき顯あらはして後世のちよに止とどめるといふとはなかつたのであります。それですから。或あるる事柄ことぢらが後世のちよに傳つたはるのには、口々に語かたり傳つたへたのであります、語かたり傳つたへて行くのにはどうしても、詳くわしくは、傳つたへて居まりませぬ、また語かたり傳つたへて行く間に種々しゆくに變化へんかしまして、それが記録きろくされる迄までには、もとの姿すがたよりも大層たいじやう變かわつたものになるのであります。従したがつて、今日こんにちに残のこつて居まる記録きろくをもととして斯かく昔むかしのことを調べやう

とするのは、誠に困難こんなんなることであります。殊ことにその國家こくかの大事件だいじけんでありませうとか、或あるはそれ程ほどでなくとも、人の感じひとのかんじの深ふかかつたといふやうなことは、長い間語あひだかたり傳つたへられますが、幼兒えうじの保育ほいくに關係けいすることは、日常じやうじ起おこつて居まりまする家庭ていけいの内部ないぶの事柄ことぢらでありまして、格別かくべつ變かわつたこともありませんぬから、語かたり傳つたへるといふことは極めて少すくいのであります、普通ふつうの歴史れきしの事實じじつでさへ、古代こたいのは極きまめて材料ざいりやうが乏とほしいので困こまりますが、保育ほいくなどといふことに就つきましては調しらべて行ゆきまするに別べつしてむづかしいのであります。けれども、その乏とほしい中なかにも幾いくらか保育ほいくに關係けいしたことが顯あらはれて居まるので、それらを拾ひろひ出して、綜合しうごうして行ゆけば、少すくしは分わかりますのです。但たゞし今日こんにちの私の話わなしますことは、ホンの一夜やつくり作つくり一向かたじけなく充分じゆうぶんに調しらべが届とどいて

居りませぬから、其御積りで御承知を願いたいの  
 であります。

先づ始めには、今日保育とか養育とかいふこと  
 は、我國の古い言葉では如何に申して居つたかと  
 いふことを調べてみませう。今日では普通に「そ  
 だてる」と申して居りまして、それには身心の兩  
 方の育て方を含まれてをるとかもひますが、その  
 そだてるといふことを我國の古い言葉では「ひた  
 す」と申して居りますこのことは日を追々にた  
 らして行く、即ち段々日の經つに従つて生ひ立た  
 せて行く、斯ういふ意味に解釋させて居ります。  
 今日では産婦とか病人とかが追々快復することを  
 「ひだつ」と申してをります、そしてそれに漢字を  
 當て、肥といふ字に立つといふ字を書きまして、  
 肥立と書いて居りますけれどもやはりこの「ひ

だつても日が段々と經つその日が經つに従て、元氣  
 が附いて來る、よくなるといふ意味で即ち昔の日  
 をたらずといふ譯と同じことで、肥立の字を當て  
 るのはよく當てはまらぬやうに考へられます

(つづく)

„Die Menschheit gelien uns Vater und  
 Mutter, die Menschlichkeit aber gibt  
 uns nur die Erziehung.“ — Weber.

人性は吾人之を父母に得たり、併れども人道は獨り  
 之を教育に歸せん。な  
 エーベル



# 寄書

お寺まゐりの婦人と子ども

岩手 凹 凸 子

しろがれもこがれも玉もなにせんに  
まされるたから子にしかめやも

かういふ貴い子寶を專育せられるところの婦人諸  
氏よあなた方は、四月八日のお釋迦さまの誕生日  
とか、さうでなくとも、盆であるとか、彼岸の中  
日であるとかいふ御縁日には、お寺へ參つて御先  
祖のみ靈を拜んだり、或はお年寄り方などは、末  
來の幸福を祈つたりなどされて、心をなぐさめら  
れるのでありましょー、そしてかういふ日には、大  
抵可愛らしい子供や孫やそれともまた妹なりを連

れられて、楽しくおまゐりをせられるのでありまし  
よー、私なども幼ない時などには、お婆さんや、  
お母さん、さうでなくとも姉さんなどに連れられ  
て一所にいつた事もたび／＼あつたよーに覚えて  
居ります、寺の和尚さまから彼岸園子をもらつた  
り、お釋迦さまの奇麗な花繪をもらつたことなど  
ありまして、私などは極お寺まゐりをすきであり  
ました、それですから、お寺參りについては、い  
まだに忘れないで覚えて居ることが澤山あります  
が、その中で、一番面白く、しかも一番恐ろしく  
感じましたのは、あの地獄極樂のかけ圖でありま  
した。今考へて見ますと、あの掛圖がいかにも  
小兒を誡める上に好材料であるといふことがわか  
ります。私などは小供の時遊び仲間でも一番さか  
ないあばれ坊主だといはれたほど亂暴であつたそ

ですが、その掛圖かひづの前に來きますと吾われ知しららず頭あたまを垂たれたことがあつたよーに覺ぼえて居まります。併しかし之これは單ただに私わたしばかりではなひな同様どうようであらうと思おもひます。たとへ一時じばかりかはしれませぬが、この掛圖かひづの前まへでは、慾よくも得とかない、いはゞ悟さとりを開ひらいたともいひましょーか、とにかく一種しゆいふにははれぬ奇麗きれいな清きよらかな、がくくしい心こころがわいて來くるといふことは確たしかであります。殊ととによく覺おぼえて居まりますのは地獄ぢごくの繪圖えいづで、あの僞いつはりりをいつたからといふて鬼おにが釘拔くぎぬきをもつて舌したを抜ぬいて居まる所ところの劔けんの山やまを追おはれる所ところ、竹たけの鋸のこぎりで頭あたまから割わかれるところ、盜ぬすみ食くひをしたからといふて、人ひとを目方めかたにかける所ところ、火ひつけをやつたからといふて、火ひあぶりをされる所ところなどであります。あれは生いききて居まるとき、わるい事ことをしたために、死

んでから赤鬼あかまにや黒鬼くろまになどの住すんで居まる地獄じごくといふおそろしい所ところにやられてせめられるのであると、和尚わしやうさんや、お寺てらまゐりの人ひとたちが、ねんごろに説といてきかせるのでありますから、子供こども心に露疑つゆたがはないで眞ますぐに信しんじて受うけてるのであります、又また智識ししきといひ、經驗けいげんといひ、極きつめて淺あさはかな子供こどももには、どーしても僞いつはりりであるとは思おもはれないのであります、それから今いま一つ覺おぼえて居まりますのは、御釋迦みやしかさまの葬式まうしきの繪圖えいづでその葬送まうそうには、ありとあらゆる生物せいぶつが、大抵出たいでいで居まりますが、只ただ一つ居まらないのは、猫ねこばかりであります、之これはお釋迦しやがさまが、お病氣びやうきのをり、天てんからお藥いすりをおこされたのを鼠ねずみがそれを運よこびにいきますと、猫ねこは鼠ねずみを捕とつて食たべたから、夫それで仲間なかまに入いれないのであるといふのですが、之これなどは、小供こどもにはどうしても

信じられる話であらうと思ひます。かういうことは小供がだん／＼長じて來ますと、なに之れはわるい事をさせまい方便として、わざとこしらへたものであるといふことは、わかつて來ますけれども、しかも之れがわかつたからといふて、別に本誌第九號に載せられた高木先生の所謂母の言葉の見下げたつまらぬやうな考へは起きて來ないのです。之れは私が子供のときを追想していふのでありますから果してあたつて居るか否かはわかりませぬが、かういふところをうまく子どもに呑み込ましたなら確かに之れは小兒教育上尠なからざる功驗があらうと信じて居ります

(未完)

母と子と繼母

五十二

林 壽 祐

天高く地廣く萬物多しといへども、母程戀しく慕しく尊く親切なるは無く子程愛らしく樂しく頼まじきものは無し。假令母が嚴しくわらうとも子が魯鈍であらうとも、其愛情は離なすも離れず切ても切れず、彼の夫婦の情合親しきとか朋友の信義厚しとかいふと雖も、もと／＼骨肉わけての縁故に非らざれば、其親密の度到底も母子の情に及ぶべからず、吾人は深く信ず無形的の親和力に於ては母子の情に比するもの無しと。

夫れ造化の意匠たる、生物を繁殖せしむるに數多の幼稚を數多の母に養育せしむる時は、甚だ不穩且つ不利益なるを以て、各自に已れの産みたる子を保護養成せしむるの性情を賦與したるものな

るべし。故に獨り人類のみに止まらず獅子、虎、熊の如き猛悪なるものより、鳩燕の如き可憐なるものに至るまで、其子を愛するは皆同一徹にし、已れの産みたる子を顧みざる者は特に例外者と看做すべきなり。母は其子を愛するの餘りみすく已れの生命を犠牲に供することあり。西洋の或る婦人一日氷雪の上を旅行し、寒氣強烈肌を裂き血液不循常に息絶へなんとするに際し、猶其子を思ふて已まず遂に已れの衣を脱ぎ其子を纏ひ堅く抱きしめながら敢へなく最期を遂げたるが、其子は爲めに救出さるゝを得たり。また狼及び熊の母親がいかに其子の殺害されしを見、且つ怒り且つ悲み遂に憤死せしか海豹の如きは常に子を抱き激浪の中に游泳し、獵夫に追はれ、遠く奔馳するときも離すことなく、海獺海驢は其子銃殺せられ

んか、性來怯懦なるに拘らず獵船めがけて慕ひ來たり無慘にも銃丸に倒れまた鯨の如きは一朝其子を失ふ時は大音を發して悲鳴すといふ。禽類に於つても燒野の雉子夜の鶴、若し兒童等が鷹或は鳶の雛を獲んとする時は親鳥は奮然勇氣を鼓し飛來つて兒童の頭を打ち以て之を逐拂はんとす、黃道眉、雀の如も小弱なるものは巢に手を觸るゝを見れば、前後左右に狂ひ廻はり其雛を持去るや、哀聲を出し遠く追尾するものなり。人類より下禽獸にいたるまで母が子を愛するは誠意誠心より出で其間に一點の曇なし。噫美なる哉。

諸嬢靜思一番、試に往事を顧みよ。吾人が母の胎内を出でし頃は如何なるものなりしか、軟さごと綿の如く弱きこと卵の如く苟も、荒々しくせんか直に破碎せんとす、併も亦實に不潔にして噪がし



き厄介者として他人をして傍に居るさへ眉をひそめしむることありき。然るに母は如何潔癖であらうとも更に厭なく手ら不淨を拭ひ、或は夜半に醒めては手搜りして寒暑を氣づかひ只管子の養育に餘念なし。それ婦人の性たる概ね柔和にして動もすれば顔を紅くし或は物事に遠慮する者なれども子生るゝに及べば些細なる事など遠慮するの猶餘なきにいたるを以てや、大膽となるなり。而して其子にして少く生長すれば、翫弄物を與へ或は已は食はざるも子に飽かしめ、寒暑に應じて衣服を整へ、我儘言ふも怒らず、遊出して會々遅く還れば河沼に墜落せしには非らざるか、途を迷ひ違ひしに非らざるか、負傷せるには非らざるかと、思はぬ事にまで氣をもみ若し病痾に罹れば日夜看護怠らず、一日も速く快愈せんことを祈り、已れば

粗服を纏ひながらも子には乏しき財布をたゞきても成るべく見苦しからぬ様にと苦心し一喜一憂常に我子と共にし、また年長けて他郷に遊學するに至れば、第一に衣服に心を注ぎ冬は寒からぬ様に思切りて綿を入れ、夏は凌ぎ易からぬ様輕快の品を撰び能く勉強せよ、而し疾病にかゝらぬ様注意せよ、無益に金銭を費すな、而し困る事あれば速に通知せよ、土用休みは幾日なるや、正月休は何頃なるや、且つ説き且つ問ひ學費も定めし餘分を要するならんと潜に紙包を出だし、其出發するに及んでは數日間心は共に他郷にさまよひ、寒さにつけても熱さにつけても我子を思ひ、書信いたれば先づ安否如何にと打案んじ、休暇を以て歸れば彼是と勞はり、試験と聞けば便りに任せて滋養品を贈り學成り業終れば本人に倍して喜びそれより

人の婿となり嫁となるまで先から先と思ひ惱み全  
 く一家の主人となり主婦となるまで子故の暗に迷  
 ん親心の天性（義務か）とはいふものゝ如何に嚴  
 肅に如何に温愛に如何に周到なるか。  
 續つて等しく此社會に生息する同胞を顧みよ、冷  
 淡、無情、貪慾、森鬱、誑詐、猜疑、嫉妬を以て  
 充たされたる浮世の中に矛とも楯とも頼むべき母  
 に後れたる憐れの子女を觀よ。母に後れたる子女  
 は恰もそれ親鷄に離れし雛、他の牝鷄便りてかけ  
 よればすげなく打ちつゝかるゝのみ、何處に向つ  
 て哺まれんとするか同じく親なれども父の情は母  
 の如く暖かならず、假令父に叱からるゝも母さへ  
 あれば傍よりなだめくれらるものぞ、母なくては  
 誰れか涙を拭ひくれるぞ。母なき子こそ憐れなる  
 はなけれ。

余は母なし子に就き潜に注意するに、衣服裂け  
 やうとも下駄の鼻緒切れやうとも足袋に穴が出来  
 やうとも、母あるものゝ如く繕ふてあるもの少し。  
 殊に女子にありては衣服、化粧、裝飾等により容  
 易に母の有無を知るを得べし。何となれば母親生  
 存する時は化粧、着様につき注意周密なるも、母  
 なし子は隅より隅まで顧るものなさを以て、自然  
 裝飾等に欠點あるものなり。また母なし子は何れ  
 も淋しき相貌なるが如し、それも道理、例へば夏  
 の永き日など遊び疲かれて家に還れば母は第一深  
 く其勞を慰め自ら足を洗ふやら、蒲團を敷くやら  
 蚊帳をつるやら、彼是と手を盡さるゝものが、母  
 なし子は如何、概ねこそく下駄を携へ自ら冷  
 水にて足を洗らひ頭から着物でも被ぶり、シホ  
 くとなりて眠らねばならず、又無情なる蚊は容

赦なく憐れの者を刺廻はり、小き腕と足は時々ビク／＼と震へ、爲めに生寢にて醒むるも母なれば愚圖することも出来ず、再び縮こまりて眠るなり他の小供が飴或は菓子を買ふに、母なし子は往々指を含へてたゞ見居ることあり、他の小供は母に連れられ物見に行くも唯羨みながら之を見送ることあり。かゝる憐むべき地位にある子女に對して唯に冷淡なるのみならず、一般に之を侮り、はては下婢下僕に至るまで之を馬鹿にするの風あり。嗚呼外に出で、は世人及び同輩に輕蔑せられ、内に入つては語り慰むるものなし、恰も木より落ちにし猿のごと。是れ自然つれなき状態を呈する所以なり。さてまた母なし子の慟哭は普通兒童が啼哭するとはやゝ異り、悲哀叫咽につぐに大息を以てし、流れ出づる涙及び啼哭後の相貌は一種言ふ

に言はれぬ悲みを含めり。あゝ顔是なき小頭にも既に人世のあぢきなき事を感じるにや。而して世間には子を持つてゐる者、即ち既に已に愛情に富みたる婦女が、親ある子には其親に諂諛ひ、深く愛敬の意を表するも、親なき子には憚る所なきを以て常に之を疎んずるものあり、言語同斷、無情もまた甚だしひ哉。

(つゞく)



水と人生



摩訶生

天地自然の凡ての現象、仔細に之を觀察すれば  
 専門學者ならぬ吾人に於ても、亦多少の興味な  
 きに非ず、茲に暫く此稿に於て語る處のもの、  
 唯其幾千萬分の一斑ならむのみ、若し唯幸に  
 年少讀者の爾後の精察の「ミロコ」となるとわらば、  
 余の幸とする處なり。

我等人類の生息する此地球の表面の面積は、學者  
 の説に従へば、約三千三百萬方里なり、而して我

等人類の主として占領する陸地は、其約三分の一  
 弱にして、他の三分の二強、即ち百分の七十二な  
 る。

約二千四百萬方里は盡く水の蔽ふ處なり。

斯かる廣大なる面積を占めたる、

水の我等人生に及ばず影響、

之れ吾人の先づ茲に考察するものなり。

末終に海となるべき山水も

しばし木の葉の下くぐるなり、

東奥の俚人亦歌ふ、

望ある身は岩間の清水

しばし木の葉の下を行く、

いでや、此韓信然たる木の葉の下岩間の清水よ

り觀察し始めむか。

彼は綠苔と親しみ荆棘雜草と交り、蒼鬱たる深

林中より、幽々として傳ひ、遅々として行き、幾度か石敷を滑り、岩嵩に蹴ひ、又潺湲として嘔き出で、所謂溪をなし、時に小禽と遊び、昆蟲と慣る。

殿よ山行て溪水飲むな、碧い蜥蜴が身を冷す。之れ熊野山中人跡稀なる里の質朴なる若婦が、誠を込めて其夫を誡めし歌に非ずや。

細溪小澗相湊合して、水量漸く加はり、砂を走らし礫を送り、漸く岸を搏ち、岩を噛み、こゝに勇ましき波と麗はしき泡沫とを起し、忽ち斷崖を鋭く削り下る瀧となり、高く絶壁にかゝりて、轟々として夏尙寒き瀑となる。

旋轉沸騰又沸騰し、瀑潭より溢れ出で、亂石を蹴り白練を曳いて、急瀨となり、漸次に下りて、復始めて宛廻として屈曲上下し岩角を掠めて走る

更に進めば、兩岸益々平に、流勢亦從つて激しからず、薪を載せて輕舟上下する處、鱧、鮎などの屬、盛に躍る。

岸益々達く、流愈緩に、大淀となり、深淵となり白帆來往稍繁く、時に黒煙を曳いて汽船の入り來るに至つて、頓て帆柱林立黒煙天に漲る港に近づきしを悟る、波犢牛の脊の如く、唯ウネウネとして寛なり、色は藍よりも濃く、深さ數百尋遂に度るべからず。

底ひなき淵やはさわぐ、山川の  
あさき瀨にこそわだ渡はたて  
又曰く、

地薄者大物不レ産 水淺者大魚不レ游  
樹禿者大禽不レ棲 林疎者大獸不レ居  
然り、寛仁大度にして、深遠度るべからざる者に

非ずば、以て大人たる能はず、以て將に將たる能はざるなり、吾人常に淵に對して此感なくんばあらざるなり。

而かも溪に於ける瀧に於ける奔流激湍亦無限の爽快を吾人に捧ぐるに非ずや、彼等は山岳切斷の大魔力と石礫泥濘の大運搬者たる能力とを有する壯漢に非ずして何ぞや、彼等は實に歴史に於ける革命の健兒なり、況んや亦之れ淵となり大人となるべき順程なるに於てをや。

是に於て乎、吾人は、水の川に於ける、彼洋々迫らす、寛弘よく百物を容るゝ深淵に親しむと、同時に、赤手空拳山谷を震動して轟然として躍り來る彼清溪急瀬を愛せざるを得ざるなり。

(未完)

七月 (ふみ月又ふ月)

せく生

野も山も、里も田も、有ると有る草木ども、打ちちへて、皆青緑の今日このごろ、白樂天ならねども、眼を放にして青山を見、緑の陰の滴るわたり、煙草くゆらしつゝ、我が田打見る農夫等の早苗とりし五月頃より、水枯れもせん眞夏の「みな月」打過ぎて、積る丹精はやう／＼に、田の面の稻に見えそめつ。穂ははらまれて、早きは出で、見ゆるなり。穗見月とも、穗合月とも、嘗て昔はいはれけむ。ふみ月の名の起原かな。

風通しよき我が書齋、思ふ様に開け放ち、有りと有る文庫の底の書ども取出つゝ、次々に隣の間まで打ち曝せば、恐るゝ蠹魚の逃げ惑ふ様、かかしとも憐なり。支那の曝書は七日なり。赧隆とか

いへる男、今日人が文ひろげ乾すならば、予として  
も一乾し乾して見んと、大きな腹押出して、日  
に向ひ腹中の書多きを誇りけりと。斯る變人今尙  
ありや無しや。文披月なるが、ふみ月の名の起原  
かな。

「竹竿頭上願絲多」。天の川  
とわたる舟の梶の葉に思ふこ  
とをも書さ付くるかな」。

この月七日の夕文かきて柵機  
つ女に願ふ儀式、乞巧奠とぞ  
いふ。昔支那より來し習慣、  
文かす事が、ふみ月の名の  
起原かな。

ふみ月の名のいはれ、いづれを眞といひ定め難  
けれとも、農の開けし我が國人の名づけ、む「穗



見月」こそ正しとやいはむ？。尙この月の異名を  
萬葉集日本書紀などにもとづけて、咏み出せる歌  
ども

文披月 (有家朝臣)

七夕の逢ふ夜の空の影見えて

かきならべたるふみひろげ月

女郎花月 (顯昭法師)

七夕のちぎりの色にたぐへてや

名つけしこともふみなめし月

七夕月 (家隆朝臣)

鵲のより羽の橋も心せよ

七夕月のころまちえたり

めであひ月 (秘藏抄酒井人眞)

七月のめて、あひ月ぢちえつ、

いかに心のうれしかるらむ

七夜月 (英傳抄)

彥星のけふや逢ふらんなよ月

七夜の空の宵のまされに

秋初月 (全上)

風なくは何とかいはむ松風の

秋のは月を音にこそしれ

米國に於ける我が

二人の女學生

やて

牧野清子嬢

余は前號に於て井口アグリ嬢につきて記せり、今

や他の一人なる牧野清子嬢を紹介せんとす、即ち

該新聞記者其の近狀を記して曰く、

海外萬里遠く故郷を去つてボストン女學校に体

操の研究をなせる婦人ある、已に大に吾人の注  
意をひけるなるに、茲に亦インスチテユート、

オブ、テクノロジーに於て、生物學顯微鏡を修  
めつゝある東洋婦人あるに至りては、寧ろ大に  
驚かざるを得ざるなり。是れ即ち牧野清子嬢な  
り。嬢は一見已に快活其の快活の性を表はし特  
に稍奇なる英語にて相談するに至りては、實に  
特種の興味を惹さしむるなり。

嬢は目下セントポブラーなるエリサベス、ビー  
ボダイ氏の別邸に寄寓せるが、其快活の性は  
早くも近隣の小兒をして無二の親友とならしめ  
たり。

茲に稍奇態なるは、此の若き婦人は前のハンテ  
ンナム通に在學せる井口嬢と同じく東京なる女  
子高等師範學校の卒業生なり。されども本國に



ては互に相知らず、渡米も時を異にせし事なり  
 牧野嬢は獨立の女學生にして、目下美術博物館  
 のカボット氏の爲めに、日本美術に關する記事  
 を翻譯し、學資を得つゝあり。

嬢は基督敎信者にして、牧師マツキム氏の管轄  
 に係る、東京マーガレット神學校の紹介を以て  
 留學せしなり。在郷中深く自然科學に興味を起  
 し、頗る研鑽する處ありしが、猶斯學の蘊奥を  
 極めんものと、留學の決心をなし、三人の従妹  
 と共に横濱を出帆し直にシヤトル市に上陸し、  
 暫してノルスワイルドに來り、こゝに聖書地理  
 英語の研究に専心怠らざりき。  
 かゝりし程にポストンは斯學研究の便宜よき場  
 所なりと人の勸むるまゝに、紹介狀を持し單身  
 當市に來たりしなり。此の勇膽なる日本婦人の

爲めに、適當の事業を興へ、其の成功を助けん  
 と望みし米人許多ありし中にも、當時神學校に  
 在りて目下はエール大學に在るアンソンスター  
 クス氏主として、此が盡力をなし、氏及其の他  
 の人々の周旋に由り、此の美術博物館の事業を  
 得るに至りしなり。されば嬢は今後四ケ年間同  
 館に止まる事を約し傍ら其の目的とせる諸藝術  
 科を修了せん事を期せりと。

記者更に嬢を賞讃すらく

嬢の云ふ所によれば、目下學校に於て、最も困  
 難を感ずるは、技藝科なりと、されども嬢が自  
 然科學植物學鑛物學に於ける非常の興味と熱心  
 とは、能く此等の困難を排して、其終極の成功  
 を見ん事、吾人が信して疑はざる處なり。猶其  
 の生物學科には、嬢の外十名の女學生あれども

顯微鏡科には、女學生は只嬢一人のみなりと。  
 次ぎに其の對話を寫して曰く、

日本に於ける女子教育の現況を問ひたるに、未だ高等なる學科を修むるもの尠なきを述べて云ふ様

無論其内には、高等なる學校に入學するものもありまするし、師範學校に入りて教育者の資格を得るものもありますが、また單に家庭に於て英佛獨語和歌音樂茶の湯活花家事經濟などを習得するものもあるのです。

宗教は私の國では家庭教育の重なる部分を占めて居ります、オバーサンやオツカサンが常に家庭に於て、子供等に孔子の道を教へます儒教は一般に信仰されて居ります、されど一般の學校教科の中には宗教はありません。

一千八百九十年十月卅日に、教育に關する勅語を下賜せられましたから、學校で教ふるものは凡て宗教以外になりました。私共は道德學として東西の英雄偉人の事蹟や婦人の理想までを教へられました。リンカンやワシントン

ナポレオン ジアングークやフロレンス ナイチンゲールなど云ふ名は私が故郷に於てよく知つたものであります。

併し私は此等のすぐれた人々の事から、最も重大なる家庭教育と云ふ格段な職務に従事するのが、實は……實に私達女であるといふ事を深く感じました。それで私は此の未來の母となり、未來の宗教を開發する所の我國女子の教育に身を委ねんと志望を起しました。

私は己に故郷で其の教育をやつて見ました。

妹は只今幼稚園の教師です。そして兄は札幌

農科大学の卒業生です。これ（其の頸にかけ

たるリボンに結びたる奇異なる形のオマモリ

様のものを指して）は、兄が函館灣内のポー

トレースで賞與されたメダルです。

私は洋服は大好きです、亞米利加のものは大概

好きです、殊に此の夏は一月ばかりヨークハ

ーバーのガーリソン家に寄寓して、又とない

愉快な暮をしました。來年も亦是非參りたい

と思ふて居ります。

ポストンも私には奇体に思はるゝ或る部分

（之は俗歴深き西町を指せるなり）の外は非

常によい處と思ひます

と終りに記者は嬢を讚嘆すらく

吾人は牧野嬢が我がグローヴ記者に應接せし其態度と、記者がやがて暇を告げて去らんとせし時、嬢が自筆になれる華美なる日本畫の額面を示せし如き、其の隔意なさとを以て、日本人の愛嬌ありしかも禮法に嫻へる一例となすを得べきなり。

吾人は此の二人の日本婦人との一回の會見に於て、只僅に勇胆、耐忍、快活の諸徳を認めたるのみなれども、此等親切にして交際に巧みなる日本婦人が、米國婦人に教ふべき多くの事實あるを信じて疑はざるなりと

譯者未だ二嬢と一面の識なし、されど其の同情を寄するや切なり。況んや校を共にし郷を同くし互に相識れる諸姉に於てをや、余は切に祈る、二嬢が健全以て其素志を遂げ、國家教育の爲め盡瘁せ

られん事を。(完)

結婚論 (承前)

野本生譯

人は、幾何の収入を得るに至りて始めて、結婚すべきものであるか、其は、元より、一定することとは出来ぬ。何となれば、一ヶ年僅に、六百弗の収入をもて、妻を娶りて、幸福なる生計を營んで居るものもあれば、又、一千弗の歳入をもて、猶且借金に苦んで居る者もあるからである。其は畢竟、其の當人達の心掛如何によるのである。然れば、妻帯するには、六百弗の歳入を要すべきや八百弗にてよきや。將又、一千弗はなくて叶はぬや。といふやうな問題は、全く、其の當人と、其

の女子との間に決すべきもので、局外者の他人には、到底、決し得らるべきものでない。然れど、予は、徒らに、金錢上の關係をもて此の問題を決するより、寧ろ、或る他の立脚點によりて、之れを解決することの優れるを主張する。貧苦の戀愛を好ましからざること、前已に述べたる如くなれど、年猶若き男女の。最低の階段より起りて、漸次、最高の階段に上り行くことの宜敷を信ずるのである。即ち、斯く、相携へて漸次、上部の生活に昇り行く事は、兩者の間をして、愈々親密ならしめ、從て將來の幸福を安全ならしむるに最も便利であると思ふのである。若し、予にして、六百弗か、八百弗か、若しくは、一千弗の歳入ありて衷心一女子を愛し、且つ其の女子にして、正直勤儉にして猶ほ、適當の年齢に達し居らんには、予

は、此の女子をして、此の收入問題を決せしめんと思ふ。何となれば、女子は極めて慎重なる方法によりて、容易く、此の種の疑を決することが出来るからである。以上は、此問題に關して、予及び、他の記者等の説述し得る範圍にして、是より以下は、各人、自ら決するより外に仕方がないのである。記者の説述したるころは、記者自ら善しと認め、安全なりと思惟せる概則を指示せるに過ぎないのであるから、讀者諸君は、各箇人の事情必要に應じて、此の概則を取捨すること勿論である。然れど、猶ほ一言したきは、青年諸士の女流を信ずること飽迄強固にして又、結婚を視るゝ極めて神聖でなくてはならぬことである。且つ又、結婚は、其の各方面が、華美艷麗にして、常に、紅色を帯べりと思ふべからず。必ずや、紫色なる

時あれば、時に或は暗黒なる陰影を生ずること又無きを保せず。人事、素と、意の如くならず。困苦、憂悶、孰れも、無き能はず。然れば、結婚、獨、此の軌道の外に逸すること能はざるなり。我等、人類社會、現時の隆盛は、全く結婚即ち婦女子の愛戀に因れる事前すでに述ぶるが如し。然れど人、女を娶りて後、時に或は、彼の女の費多きを怪むべく、兩者の間、其の思惑、全く相反して、時には癢に觸はることもあるべく、從て又、小言をいふこともあるべし。去れば、翌朝の出勤に言葉も交へずに家を出づることもあるべく、又或時は、打連れて、外出せんとするに、彼の女の仕度、餘りに手間取りて、腹立たしき時もあるべし。又巳が好まぬに、妻の方が外出せんと促す時もあるべく、永き間には「女は一棘、奇妙なもの

だが、汝は又格別だ」といふやうな、きまづい事  
 もいふであらうし、又、後では非常に氣の毒に思  
 ふが、一時は、大に怒ることもあつたであらう。又、  
 折角、家に歸りても、妻の姿が見えなかつたり、  
 或は、時分時に食事の仕度が出来て居らなかつた  
 りするので、腹の立つこともあつた。併し、畢竟、  
 人は己れ自らに、斯く語るべし「予が妻は天使の  
 如きものなり、彼れは、予が爲めに、最善なるも  
 のと最善ならざるものとを能く知れり、彼れは、  
 何事も犠牲てふ眼光をもて視ることをしない。彼  
 れは實に、予が日常の慰藉者なり、病苦には予を  
 慰安介抱し、困苦には希望の星となりて、予を指  
 導す、予が、粗暴に走るの時、彼れは、細心、警  
 戒を怠らず、予、又、輕ろしく、人を信じ、  
 生命を危くするの時、彼れは、一瞥、能く、對手

の心底を透觀し、其が性格を看破して、予を守る  
 べし。嗚呼、妻は到底愛すべきものなり。缺點、  
 勿論、これあり、然れど、予も亦、是れを有す。  
 而も、其の多くを有てり。彼れが、凡べての缺點  
 は、予これを知れり、而も、彼れは、予が缺點を  
 知らざるもの、如く、常に、予が善き點のみを語  
 るなり。彼の女は、到底、最善なり、最良なり。

(完結)

七夕

節句生

来る七日は五節句の一つで七夕と申します。夜  
 になつて乞巧奠即ち七夕祭をいたすのでありま  
 す。徳川時代には、五節句は皆大切な祝日であり

ましたから、此の日に諸大名の御辰の刻に白帷子の長上下で参賀のため御登城になつた事は、三月上巳の儀式通りでありまして。下々一般の者も之に準じて祭つたのであります。

一寸其の祭の様を言つて見ますれば、昔は其前日の六日に稻の葉をとりまして、之に詩や歌を書きまして、又其に五色の絲などを添へて、牽牛、織女の二星に捧げ、誰もく自分が巧になる様に乞ひましたが、近い頃になりましては五色の紙を色紙形短冊形に作る、其れに七夕の古歌を書きまして笹の葉に結び付けて、軒先に高く掲げます、或は其に紙を剪つて網の形にした物や、菓物や瓜、筆其の他種々の形を作りまして、竹に懸ける様になりまして。夫れ故に手習子供は五六日前から、七夕の詩や歌を習ひ、又硯机を洗ひ等して各自

六十八  
に手跡の上達する様に、二星に祈るといふ志を表はしました。今日此の風俗も東京市内には極めて稀になりまして田舎に行く程まだ盛であります。

この事の初は、我が國は今から千五百年許前で孝謙天皇の天平勝寶七年だそうであります。其の時の禁中の様子は「乞巧奠先七日なれば、藏人御調度を拂ひ拭ひ、夜に入て乞巧奠あり御殿（清涼殿也）の庭に机四脚を立て燈臺九本各燈火あり。机の上に色々の物をすゑたり。箏の琴、琴柱を立て之を置く。机の上に火とりに、終夜空焼物あり。盥に水を入れて大空の星をうつす云々」（公事根源）とあります。斯様に上にも下にも一般に行はれた風でありましたから、歌にも多く咏まれ文にも作られました。文學の上には和漢共に中々

勢力が、ありました。

終夜星合の空に奉る香の、

煙や雲の初なるならん(仲正朝臣)

白露の玉のおごとの手向して、

庭にかゝぐる秋の燈(常盤井入道)

七夕のあふ夜の庭におくことの、

わたりにひくはさゝかにの糸(寂蓮)

聞かばやな二の星の物語

たらぬの水にうつらましかば(建禮門院)

さて此の二星の事は、支那の古い俗説から出て

支那も早くから盛に其の祭を致しました風が我が

國に入いつたのであります。其の俗説と言ひまし

ても少々異同はありますが、誰も御承知の通り大

概次の通りであります。(天の河の東に、麗はしい

一人の處女が、ありました。其れは天帝の愛子(二説

孫と)でありまして、常に機ばかり織つて居まして

毎日毎月毎年働き續けに働いて、雲霧の綉縑の衣

を織成して、更に歡樂といふことはなく其の美し

い容姿をつくる程の暇さへなかつたのを、其の親

たる天帝は、いたく其の獨住のつれなさを憐れに

思召されました、天の河の西に居ります牽牛と結

婚させて下さいました。夫れからは織女の喜びは

大したものでありまして、以前の骨折つかけの苦

しみは、全然喜び續けの樂と變りまして、大切な

自分の職分たる絹織る女功は廢めて仕舞ひ、今度

は緑の髪に花の顔、その化粧が朝暮の仕事と變

つたのであります。さあ之を見られた天帝の御立

腹は一通や二通でありませぬ。織女を前の通り河

の東に呼還して、女功を勤めさせ、但一年に一度

この日の晩に牽牛に會はせるのであります。此の



事を詩や歌に作つたものは澤山あり申す。

織女牽牛雙扇開、年々一度過河來。

天の川遠さわたりにあらねども、

君が船出は年にこそ待て。

浅からぬちぎりと思ふ天の川、

あふせは年に一夜なれとも。

七夕のながさ思ひも苦しきに、

此の瀬をかぎれ天の川浪。



●九重の御消息

●親王御降誕 竹の園生の御榮、いやが上にも生

ひ茂らせ給ふ事、めでたしともめでたし。皇太子

妃殿下には 先月二十五日午前七時三十分御分娩

第二皇孫殿下御降誕、兩殿下とも此上なく御健祥

に在らせらるゝ御由、當日は、妃殿下の御誕生日

に當らせらるゝとは、目出たきが上にも目出たき

御慶事と申し奉る外なし、尙

●御命名式日 は七月一日御舉行あらせらるゝ趣

にて當日は宮中皇靈殿賢所神殿に於て奉告の御

祭典を行はせられ、天皇陛下より御命名の御次第は勅使を以て東宮御所に御通知相成るべしとの御事なり。(六月二十五日謹記)

●各宮殿下御避暑地 皇太子殿下を始め奉り、各

宮殿下には本月十日より廿日頃の間、於て何も御避暑せられらる次第なるが、其御地割は左の如く御治定相成たり。

- 皇太子殿下 日光田母澤御用邸
- 迪常宮殿下 函根宮の下御用邸
- 周宮殿下 日光朝陽館の御用邸
- 富美宮殿下 函根宮の下御用邸

●皇后宮行啓 皇后陛下には先々月三十日、雨中をも厭はせられず上野公園内に開設中なる東京府教育品展覽會へ行啓遊ばされしが當日、陛下には幾千の兒童の手に成る製作品を綿密にみそなはされ、屢々御褒詞を賜はりたる由にて、千家知事

は左の如く御沙汰書を認め同會に傳達したりといふ。

御沙汰書

- 一、圖書習字等は每郡區の陳列場に於て、少くも一綾分を御覽遊されたり。
- 一、裁縫品陳列の場所に於て知事より同一のもの、み多數ある旨申上たるに、品物は一樣なるも裁縫したる兒童は異なるに付、能く見ればならぬとの御沙汰あらせられたり。
- 一、當所の陳列場に於て知事より小笠原、八丈、大島其他の教育の模様を申上たるに、深く御目を留めさせられ、當所の教育も斯くまで進歩せしや、誠に喜ばしき事なりとの御沙汰あらせられたり。
- 一、雨中多數の生徒奉迎せるを御覽遊ばされ、此の雨中に可愛想なりとの御沙汰あらせられたり。
- 一、御覽後、斯く兒童の學藝進歩する様教授する教員の苦心盡力は容易の事にあらざる可しとの御沙汰あらせられたり。

●學びの窓

●女子高等師範學校 先月二十一日午後一時第二回如蘭會談話音樂体操部々會を開きしが、中々の盛會にて、各部とも其進歩頗る見るべきものあり

りたりとの事なり ▲附屬高等女學校の談話會は同日  
じき十一日開會せりとのこと ▲教授三輪義方氏の  
代はりに尾上八郎氏今回、唱歌教授を囑托せられ

たりといふ ▲來る十一日より本校附屬校園とも、  
夏期休業となるべしとの事なり ▲久しく保育囑托  
として幼稚園の爲めに力を盡されし羽田晴子氏は  
病氣の爲め先月囑托を解かれたりとの事。

●東京府立第一高等女學校 淺草七軒町に新築  
すべき同校は目下敷地の地均中なるが、八月まで  
には工事を落成すべき見積なりといふ、校舎は普  
通教室十五個特別教室五個を設け、全校六百人の  
生徒を收容するに足るべき設備を爲す筈なりと。

●女子美術學校別科 本郷弓町なる同校にては  
今般苦學生の爲めに別科を設け、特に授業料並に  
材料費を免除して志望の技藝を修めしめ、傍ら學

校の製作品を製作せしむる規定にて、修業年限は  
二年、目下造花編物蒔繪の三科に限り、各十名づ  
ゝ募集中なりと云ふ。

●家事専門女學院の開設 家事科教育専門の目  
的を以て今回小石川區白山御殿町百七番地に假事  
務所を設けらる。同院は目下尙は假開設に過ぎざ  
れども、教授法の精確と懇切とを主として、家政  
上須要なる教育の爲めに、大に盡すところあるべ  
しといふ。

●女囚攜帶乳兒保育會 今回板垣伯其他有志者  
に由て創立されたる同會は事務所を女子同情會  
館内に設置し、廣く婦人間の賛成を求めて可憐な  
る攜帶乳兒を庇保し乳養の道を開かん目的なりと  
いふ。

●夏期講習會 女子の爲に開く夏期講習會に付

きこては乞ふ本誌廣告につきて承知せらるべし

●ヒューズ嬢送別會 本月五日帝國教育會に於て

神田乃武氏ミス、ヒューズ嬢を招待し、講話會を兼ねヒューズ嬢の送別會を開く由。

●動物虐待防止會 今回知名の諸士の發起によりて組織せられたる同會は假事務所を芝區高輪北町五十三番地に置き、演説出版等其他の方法に依りて目的たる動物虐待の悪習を矯正せんとし、毎月十五日を以て例會を開く定めなる由、發起人の主なる人は近衛公、加納子、井上、元良、南條、村上の諸博士福島安正、澁澤榮一、辻新次等の諸氏なりと

●女學生獎學金候補者 我が女學生の爲め米國有志婦人の創立したる獎學金により既に二回の留學生を派遣したるが、今回又第三回目の募集に際

し試験科目を設けて有望の女子を選抜し、來春早々波米の途に就かしむる由、詳細の事は麴町元園町一丁目女子英學塾に於て尋ねべしとなり。

●萬國郵便聯合紀念祝典 萬國郵便聯合加盟廿五年紀念の祝典は先月二十日午後三時帝國ホテルに舉行せしが、出席者二千餘名、當日小松通信局長は郵便電信取扱人にして廿五年以上勤續の者三百八十名の總代に賞品目録を授與したりといふ

●大日本婦人教育會常集會 は去卅一日午後一時半より永田町華族女學校幼稚園内に於て開會、立教女學校校長本田増次郎氏の『歐州に於ける婦人地位の變遷』につきて及び法學博士松波仁一郎氏等の演説ありたりとの事なり

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

●虎列刺病の襲來！ 恐るべき虎病佐賀縣に發

生して既に又東都に襲來せり。其筋の調査によれば佐賀縣にては先月二日初發、臺灣にては先々月七日初發せし以來、去廿四日までに各縣に於ける同病患者の數を擧ぐれば、佐賀縣下四十七内死亡二十六、長崎縣三内死亡二、臺灣其他十二内死亡五、合計六十一内死亡三十三なり。

東京より (六月廿五日)

撃水生

▲蕭然たる一室の南の窓を明け離して、山に河に立ち昇り立ち消ゆる霧の中より、杜鵑の雨を衝いて一聲殘し行くを眺むるなど、詩想涌然として自ら起る五月雨の空、山川の里は萬に趣深かるべき今日此頃、都は打つて變つての殺風景、打ち續く梅雨中に市中は一面の泥田と變じ、大地にヌキ足し

て行く光景、詩想も何もあつたものに無之候。

▲夏向きに相なり候て、又々改良服の時季は來り候。併し打ち見たる所、昨年あたりの改良服はど  
うやら失敗に終り可申様覺えられ候。子供は一体何を著させても似合ひ申候へ共、大人となると左は參らず、某女學校の改良服も一向引立ち申さず候。目慣れぬ故可笑しきなりと申し候へども、元來一見して、飛び付く程でなくては到底流行は致し申さず候。何とかよき趣向ありたきものに候。  
▲先月來讀賣新聞のはがき集に、小學校生徒の衣服近來著るしく華美に流れたりと、中々八釜しく議論有之候。或は事實可然と存じ候。併しながら一般社會の奢侈に流れ候事は、近來著るしき事實に候。兒童の美服云々はつまり之が影響に候。先づ父兄自らより矯止せでは叶ふまじくと存じ候。

▲恐ろしき虎刺拉病佐賀を襲うて、昨今東郡にも此處彼處侵入し來り候。歐人は此病をば野蠻病と申し候とか、其心は野蠻人は衛生思想に乏しく衛生思想に乏しき程、流行する病氣なればとの事に候。要するに一人の不衛生より一國其災害を受くる事に候へば此際、各自一入の攝生こそ專一と存じ候。

▲一昨年は子歲にてべすとの流行を見、昨年は丑歲にて鷄口瘡の侵入あり、本年は即寅歲なれば虎刺拉の襲撃に出遭ひ候。來年の卯歲にはさて何病の御見舞にかと申し居り候。

▲夏期休暇目前に迫りて、都下幾百の學生夫れと歸装に忙はしく候。清楚なる山水の間に起臥して自然の純美に心を洗ふこと數旬命の洗濯日はまことに此時期に候。さりながら多少規律的生活に

慣れ來りたるものを、久々にての歸省に「よく來た、よう歸つた」と四方八方父母親戚朋友からの歡迎の爲めに、吾れ知らず攝養の法を失ひ、反つて身体を損することはこれ迄小生どもの實驗し來りし處に候。殊更本年の如きは一層の注意肝要に候。

▲當地目下何の風情も無之候。東洋寫真會は寫真術熱心の素人の會にて先月廿二日まで開かれ、頗る好評を博し候。教育品展覽會も種々の風評の下に先月五日閉會致し候。

▲淺草の花屋敷の象は相變らず健在にて、種々の藝を演じ候。ラツバも吹き候。碁磐乗も致し候。御辭儀も致し候。巨大な身体をもて余しながら、どこまでも可愛き彼は子供の大喜びに候。上野動物園の獅子も健全に候へども、あはれ、六尺四方

の小天地に踞踏して徒らに昔日の壯圖を徳ぶ面影  
髣髴として眉間に往來する様をゆる不憫に候。早  
々

### ● 地方通信

● 札幌女子學生寄宿舎 本道女子の教育も、時  
勢と共に進歩し、殊に昨今高等女學校設置せられ  
てよりは女學生の當地に遊學するもの多し、然れ  
ども未だ適當の寄宿舎なきにより、今回保護監督  
法を立て、假寄宿舎を設けられたり。

● 婦人協會例會 帝國婦人協會は六月七日午後  
一時より女子高等小學校にて例會を開き、西川か  
め子の米國談、撫養院長の衛生談、金森通倫の演  
説などありてなかくの盛會なりき。

● 北海道聯合教育大會 來る六月廿三日より札  
幌區北海道教育會に於て開かる、筈なるが、本道

教育會より提出せる女子教育に關する問題は如左

女子師範學校を道廳府縣に必ず設立せられんこ  
とを其筋に建議すること。

女生徒の體操教員は男女何れを可とするか。

● 地方費補助の命令 北海道教育會は去る四月  
廿二日付を以て、北海道廳長官より金千圓の補  
助を得たれば、同會は四百圓を小學校教員講習會  
費に、參百圓 圖書編纂費に、參百圓を圖書館費  
に配當せり。

● 六月の北海道 梅雨の候、濃霧山をこめて  
鬱陶敷、山又山の樹々も青葉繁り、炎帝の駕を迎  
ふるも今三句を出でざらん乎。

### 海外彙報

● 英杜戰爭の結末 殆んど三年間續けられたる

英杜戰爭は左に示すが如くにして遂に局をハベリ

千八百九十九年十月十一日

千九百二年六月一日

戰爭終る

戰爭繼續の期間  
二ヶ年七ヶ月二十日間  
士官一千六百十三人  
兵卒二千一千三百八十八人

英軍戦死者  
士官三千三十人  
兵卒七万六千五百五十二人  
不詳

英軍傷病者

杜車戦死傷病者  
捕虜となりてセントヘレナ、セーロ

ンベルムダ等に送られたる杜軍  
英國が費したる軍事費  
十二億五千万弗

●阿非利加に於ける諸國の領地  
南阿の兩共和

國英國の有に歸したる以來、阿非利加に於ける諸

強國の領土の面積は左の如くなりと云ふ。

英領地 二、七一一、九一〇平方哩

佛領地 三、八〇四、九七四

葡領地 七九〇、一二〇

西班牙 一六九、一五〇

獨逸 九三三、三八〇

伊太利 一八八、五〇〇

而して阿非利加に於ける獨立國の面積は總て一、

四九一、〇〇〇平方哩にして其内九〇〇、〇〇〇

平方哩はコンゴ自由國の面積なりと云ふ。

●英皇戴冠式の御延期  
先月二十六日を以て、

舉行せらるべかりし英國皇帝戴冠式は、陛下御

不例の爲め突然延期せらるゝ事となりし旨、其前

日のルートル電報は傳へ來れり。我が皇室より

も直様御見舞の御親電を發せさせ給ひし由なるが

此大典の延期に付きて、皇帝の御遺憾は申すまで

もなく、世界に於ける幾多英國國民の失望左こそと

察せらるゝなり。

新刊 紹刊

▲女訓のしをり 全一冊 三輪田眞佐子著

著者女子教育に従事すること既に三十年。公務の餘暇、或は雜誌に演説に教育上の意見を公にせられたるもの甚多し。本書は即ち之等の意見を訂正して優美なる一綴さし刊行せられたるもの、熱心の情公平の見、句々躍然として紙面に溢る。學生は言ふに及ばず、苟しくも女子教育にたづさるる人には一讀三讀の價值は確に



之あるべし(發行所東京日本橋區通り一ノ一九、大倉書店)

▲小學女子遊戯法 全一冊 伊藤成子編

尋常一年より高等四年に至るまでに別ちて遊戯を排列し、凡そ百二十種の材料を撰擇せり。編者は女子高等師範學校の卒業生にて今現に同校附屬小學校に實地授業に従事せらる。未だ精證せざれども其適切なるは疑なかるべし。(定價五十錢發行所東京本郷森川町一育成會)

▲料理講義錄 發行所

東京京橋區鈴木町十一  
大日本割烹學會

石井泰次郎氏主任となりて編輯せるもの、先月五日前期第一號を發行せり。載する所日用惣菜より始まり實際料理、茶事懷石、儀式料理諸菜切方支那料理西洋料理等最懇篤に併かも簡明に講述しあり、其他食堂心得料理雜話料理質疑等有益の文字極めて多し。家庭及學校教育上、頗る庖厨の業の重要視せらるゝに至りたる今日此講義錄の出版せられたる、誠に時期に適應ものさいふべし(會費、入會金三十錢 一ヶ月二十錢)

會 報

●第廿五常會 明治三十五年六月七日午後一時

三十分左の順序により、女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり

一、開會の辭

二、唱 歌 保姆合唱の歌

三、演 說 橋梁の觀察 野口保興君  
古代の保育法 下村三四吉君

四、唱歌、遊嬉

五、隨意談話

遊嬉は女子高等師範學校會員より提出せる花賣并に舌切雀を練習せり次て隨意談話に移り、閉會せしは午後四時三十分、來會者は會員四十餘名、同伴者十數名招待員二名なりと。

寄 附

一金參圓也

右臺灣國語學校長田中敬一君より本會に寄附せられたり。謹んで厚意を謝す。

入 會

東京の部

- 小石川區茗荷谷町八一 笠井梅野
- 本所向島中ノ門町拾五番地 一色豊
- 神田區三崎町二八一 小岩五
- 市ヶ谷山伏町二〇 川島庄一
- 京橋區南小田原町一ノ一 伊藤真

地方の部

和歌山縣和歌山市廣瀬中ノ丁一ノ五半田方

東京府豊多摩郡落合村近衛家奥

横濱市南太田町二一四五

栃木縣足利町三丁目

栃木縣足利町昌平町

朝鮮元山津

東京府南千住町一

東京府南千住町字南三

群馬縣女子師範學校

府下北豊島郡元金杉日暮里一一二七

府下南千住二十番地

改姓

福地 岸高くま

轉居

北海道札幌高等女學校へ

越後國南蒲原郡加茂町雜田内へ

東京市赤坂區新坂町六へ

同牛込區赤坂下町八三龜岡方へ

東京府下豊多摩郡澁橋町元山笠七三八辰村源藏方へ

同

香川縣三豊郡觀音寺町觀音寺女兒(尋常高等)小學校へ

利光しづ	河崎きよ	服部綱子	荒井昌三	山口保三郎	龜谷なる	吉田金太郎	小沼たま	山高幾之丞	御園生よそ	星野わか	佐藤ゆき	佐藤ゆき	佐藤ゆき	關千秋	淺岡はま	師岡伸	脇屋なほ	脇屋よし	大西永太郎
------	------	------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	------	-------

鳥取縣氣高郡美穗村大字下味野村近藤寛次郎方へ

岐阜縣高等女學校へ

京都市狹屋町丸太町下る

京都下京の場通室町東入へ

下谷區谷中初音町四ノ一三二へ

横濱西戸部四七二末吉方へ

清國牛莊日本領事館

會費領收 自明治三十五年五月二十六日 至全 六月二十五日

一金壹圓七拾錢	自三十四年	至三十五年	五月
一金五拾錢	自三十五年	至三十五年	八月
一金壹圓	自三十五年	至三十五年	七月
一金五拾錢	自三十五年	至三十五年	四月
一金六拾錢	自三十五年	至三十五年	四月
一金壹圓二拾錢	自三十五年	至三十五年	九月
一金壹圓二拾錢	自三十五年	至三十五年	十二月
一金壹圓二拾錢	自三十五年	至三十五年	四月
一金五拾錢	自三十五年	至三十五年	三月
一金壹圓	自三十五年	至三十五年	三月
一金壹圓	自三十五年	至三十五年	三月
一金壹圓	自三十五年	至三十五年	三月
一金三拾錢	自三十五年	至三十五年	六月
一金五拾錢	自三十五年	至三十五年	六月
一金五拾錢	自三十五年	至三十五年	八月

石谷いし子	堺さき	波多野あぐり	八阪さだ	酒井冬	佐和山たか	瀬川さも	本多蝶	岸高くま	藤江富佐子	雨森劍	三須利	里村なほ	神林てい	大津まん	齋藤鹿三郎	黒田定治	須藤つれ	手塚不二夫
-------	-----	--------	------	-----	-------	------	-----	------	-------	-----	-----	------	------	------	-------	------	------	-------



一金壹圓	一金壹圓	一金壹圓八拾錢	一金二拾錢	一金壹圓	一金壹圓	一金壹圓五拾錢	一金壹圓二拾錢	一金七拾錢	一金壹圓二拾錢	一金二圓	一金六拾錢	一金三拾錢	一金五拾錢	一金六拾錢	一金二拾錢	一金二拾錢	一金五拾錢
自三十四年四月	自三十四年四月	自三十四年四月	自三十四年七月	自三十四年七月	自三十四年七月	自三十四年七月	自三十四年九月	自三十四年十二月	自三十五年二月	自三十五年四月	自三十五年六月	自三十五年七月	自三十五年八月	自三十五年九月	自三十五年十月	自三十五年十一月	自三十五年十二月
至三十五年四月	至三十五年四月	至三十五年四月	至三十五年七月	至三十五年七月	至三十五年七月	至三十五年七月	至三十五年九月	至三十五年十二月	至三十五年二月	至三十五年四月	至三十五年六月	至三十五年七月	至三十五年八月	至三十五年九月	至三十五年十月	至三十五年十一月	至三十五年十二月

大橋 いぬ  
青木 せい  
永田 よし  
近藤 茂  
一色 さと  
小岩 ぶい  
柳井 つる  
鈴木 てる  
大塚 さだ  
野村 すぎ  
荒井 昌三  
小林 千年  
田邊 なか  
吉村 ちづ  
星 つね  
新免 義勇  
高羽 ふみ  
下村 三四吉  
山口 西三郎

一金六拾錢	一金七拾錢	一金六拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢
自三十五年十二月	自三十五年十二月	自三十五年十二月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月	自三十五年六月
至三十五年十二月	至三十五年十二月	至三十五年十二月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月	至三十五年六月

廣瀬 銀  
利光 しづ  
岡田 みつ  
岡田 ふみ  
岩本 ふく  
丸山 さめ  
岡本 たか  
神通 せき  
野尻 てつ  
土川 五郎  
小谷野 かね  
小谷野 千代  
長谷川 阿喜  
林 ふみ  
松村 ひさ  
野澤 あい  
市川 源三

此廣告に依り注の文の方婦人の子供を見するに當るを記す

# 女子作法夏期講習會

本會は女子教育上最も必須なる禮式作法を實用に適應せしむるやう教授するを目的とし、講師には宮中禮式を本旨として、傍ら伊勢、小笠原、松岡、吉良、會我の諸流禮式及西洋禮式に精通し其教授に熟練せる石井泰次郎氏を主任に擧げ、別項記載の諸氏亦親切に教鞭を執らる

一 學 科 起居進退 物品取扱 配膳給仕  
飲食心得 日常應接 儀式諸法

一 講 師	宮中作法臣民作法講師 女子高等師範學校講師 日本女學校講師 愛敬女學校講師 東京女學館講師 東京裁縫女學校講師 女子東京美術學校講師 日本女學校講師	大石 中有 中 松 小 井 泰 次 岡 野 順 次 村 し 住 常 濱 島 義 常 湧 太 谷 きよ	石 井 泰 次 松 小 石 岡 野 順 次 村 し 住 常 濱 島 義 常 湧 太 谷 きよ	子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君 子 郎 君
-------	---	--	---	--

一 會 期 普通科 八月一日より全十日まで毎日午前八時より同十二時迄  
 高等科 八月十一日より全廿日まで毎日午前八時より全十二時迄

一 會 費 普通科 金壹圓五十錢  
 高等科 金貳圓

一 證 明 修業者には希望により證明書を授與す

一 申 込 所 東京市原橋區鈴木町十一大日本禮節學會◎申込期限は七月廿五日を限る入會者は左の書式により申込書を差出すべし

## 講習申込書

私義貴會開設の夏期講習會に於て左の學科講習仕度此段申込候也

族 籍 番 地

一 普通科 (高等科又は全科)

姓 名 (印)

明治三十五年 月 日

大日本禮節學會御中

東京市神田區一ツ橋通町帝國教育會内

明治三十五年六月

# 大日本禮節學會

# 庭 家

第 二 卷  
第 七 號

七 月 五 日  
發 行

定 價

一部金八錢 ● 半年分前金四十二  
錢 ● 一年分前金八十錢 (郵税不  
要) 郵券代用五厘切手一割増 ●  
毎月一回五日發行

- 家庭の圓滿を願ふ人はよめ!
- 家庭の樂みを望む人はよめ!
- 『家庭』は女子の樂しき友なり
- 女子の智徳に志す人はよめ!
- 兒童の養育を思ふ人はよめ!

## 發 行 所

東 京 本 郷 東 片 町  
一 三 五

## 家 庭 發 行 所

# ●夏季女子講習會廣告●

今般公會ニ於テ教員タルニ必須ノ學力ヲ補充シ兼テ一般女子ノ爲メ新智識ヲ啓沃セシムルノ目的ヲ以テ本年七月廿八日ヨリ同八月十六日マテ神田橋外東京府立第一高等女學校内ニ於テ夏季女子講習會ヲ開ク講習志望者ハ講習科目、住所、族籍、職業、氏名、生年月ヲ記シタル書面(用紙半紙)ヲ本會事務所ニ差出スベシ

## ◎講習科目及講師

東京府女子師範學校教諭

東京音樂學校教授

女子高等師範學校教諭

前田捨松君  
小山作之助君  
波多野とく子君

## 一國語 一音樂 一家事

(育兒法)

### ◎講習料

一科目 金壹圓

但シ音樂ノミヲ修ムルモノハ金壹圓貳拾錢

三科目 金貳圓

### ◎證明書

講習結了後證明書ヲ授與ス

### ◎科外參觀

女子教育上有益ナル工場學校等ヲ參觀スルノ便宜ヲ與フベシ

明治三十五年五月

東京市神田區一番地  
橋通り町廿一

# 東京府教育會

入會願書式

(用紙半紙)  
入會願

願

現住所、族稱、職業

貴會夏季女子講習會へ入會致度此段相願候也

明治三十五年 月 日

右 氏

生 年 月 名

名 印

東京府教育會御中

# 女子夏期講習會

●●●●●會員募集●●●●●

本年夏期休暇を利用し女子の爲に講習會を開く希望の者は速かに申込  
まらべし

## ●學科と講師

- 一 教育學 女子高等師範學校助教授 東 基 吉君
- 一 各科教授法 女子高等師範學校助教授 東 基 吉君
- 一 日本歷史 日本女子大學校講師 文學士 岡部 精一君
- 一 西洋歷史 在大學院(西洋史專攻) 文學士 本多淺次郎君
- 一 社會倫理 哲學館講師 文學士 野田 義夫君
- 一 心理學 女子高等師範學校教授 文學士 雀部 顯宜君
- 一 和歌變遷史及和歌作法 哲學館講師 文學士 尾上 八郎君

會場 (追テ通知ス)

期日 八月一日ヨリ十日間(各科毎日二時宛)

講習料 一科金壹圓五十錢二科兼修金貳圓五十錢

申込 七月十五日迄入會ノ時金五十錢(講習料ノ内)ヲ添フベシ

規則 詳細ノフハ規則書ニアリ郵券二錢ヲ送ラレヨ

●●●●●會員募集●●●●●

東京五丁目二番地 大日本教育會



# 唱歌教科書

近來唱歌の流行普及に伴ひ、之が用書の發行さるもの夥しきも、多き非



## 新刊 廣告

及教授上一の間然する所なき未曾有の最良教科書と云ふも決して誣言にあ

教師用 全四冊 第一卷定價金三十錢 第二卷定價金三十錢 第三卷定價金三十錢 第四卷定價金三十錢  
 生徒用 全四冊 第一卷定價金十五錢 第二卷定價金十五錢 第三卷定價金十五錢 第四卷定價金十五錢  
 郵税一冊に就き金四錢

明治三十四年二月六日 丙務省許可  
 明治三十四年一月廿八日 第三種郵便物認可

**吉田信太編**  
**方舞** 全壹冊 定價金四拾五錢  
 本書は女子高等師範學校其他の學校に於て實施せらるゝ、舞蹈の方法及樂譜を記載せし者也

**洋琴** 金參百圓以上 各種  
 鈴木製 金五圓以上五拾圓迄 各種  
 舶來品 八圓以上百五十拾圓迄 各種

**ヴァイオリン** 各種

**樂隊用樂器** 各種  
 大太鼓金貳拾圓以上 小太鼓八圓半以上 シンバル  
 金四圓以上 其他バス、バットン、テナリ、アルト、  
 コルチツト、トロンボン等 金貳拾圓以上 百六拾圓迄

**鼓隊用樂器** 各種  
 大鼓金拾圓以上 橫笛金壹圓以上  
 學校用一組拾三圓

**手風琴** 金二圓五拾錢以上 各種  
 保險 參十圓迄

**山葉風琴** 定價金十六圓五十錢 以上 貳百圓迄  
 右の外兩用風琴、吹風琴、ハーモニカ、ブラジヨール  
 ツト其他各樂器並に和洋音樂書各音樂附屬品各種

**調律** 各種  
 郵券二錢 附送  
**日録進修呈繕**